



金拂込

動も情も聲さの思想と熱の生活と、此の間には無限の暗示と運動を含むものゝ如く餘の若き自分達は熱を感すべきものに候。あゝ熱にこそ熱にこそを大観にてしめよと。

□ 壇 敵 合 葺 □

論 醜 美

■ 稿 授 教 川 小 ■

血は迷ひ肉は飛亂し、官は碎けて叫喚の聲悲しく、猛獸も偃伏し勇士も仆る、此れ羅馬人の娛樂なる演武式を飾る最後の十五分間なり。

戦争は止を得ざる人世の汚點なり、演武式に至つては故なくして人の子を懸つて戦争の惨禍を行はしむる者、而も之を樂しむ群衆は當代社會の善美を盡したる精神淑女たるに至つては吾人は羅馬人の情性の矛盾を審まざるを得ず。

プラトール曰く哲學者は王たるべく王は宜しく哲學者たるべしと、而して古來哲學者にして王たりし者只一人の羅馬皇帝マーカス・カッセル・レプスあるのみ、仁慈にして勇武、清廉寡欲、身を

所する事薄くして民を思ふ事厚く、己を責むるに酷にして人を責むるに寛なり、殺伐なる亂世に處し尙ほ戦争の非道を高唱し得たる者只此の皇帝あるのみ、而かも是の哲人皇帝にして政勢多端の間を益々平然として無蓋演劇の王座に踞し演武式の機關を眺めつゝ一方國政の奏請を聞くありとの事を知るに至つては其の矛盾の更に大なるに驚かざるを得ず

ウオター・ペーター説をなして曰くカッセル・レプスが此の矛盾は彼が審美的性情の發達を缺きたるによる、人の子を騙つて猛獸に喰はしめ餓虎人の肉を割くの機は審美的の發達せる者には自から醜惡に自から醜態に見ゆべきなりと。

由來審美性道德性とは其の根本に於て甚だ相違しを見る、美術家は雖然たる自然の現象より或者を選び、道德家は決行し得べき諸般の行爲中の一箇を選定す、人我に賄賂を提供す取るも可、取らざるも可、而かも我れ之を受く、是所に始めて醜行あり、煩悩の大狂ふ事甚だし、而かも我れ之を退く、是所に始めて德行あり、美術家は又調和、配置、比較的評價に重を置く、而して道德家は結局社會律に調和せる行爲なり、時を選び場所を選び適合のよるしきを得たる行爲なり、己が親を親として之れを他人に及ぼすは行爲の比較評價を誤らざるなり、一旦緩急あるに際して身を捧ぐるを辭せざるは輕重の判斷を誤らざる行爲なり、美術家は其の評價判斷を表はすに音を以てし色を以てし又形を以てす、道德家に於ては其の行爲直ちに其

の評價判斷の表顯たるなり、吾人が不道德の行爲を呼んで醜行醜聞と云ふもの實に偶然に非ざるなり。

世或は美醜の感を以て人生無用の長物とす、思はざるの甚だしきのみ、自然は豊富なり而かも無用なる一物を吾人に與へず、吾人若し美を好み醜を惡むの念なきに至らば社會の風教何に依つて之を維持せんや。

過日巡回講演に伴ふて田舎の間を旅行する數日、山は飽まで縁にして田は悉く青し、其の間に裾端折りて行く二三の少女、鮮紅の襦出しを朝露に寫し行く處其の對照の美觀會心の笑を催さしむる者ありき、少女は青紅對照の理を知らず、而かも自然は彼女を促して背に對して紅を選ばしむ、見すや小遣錢を飾りて購め得たる彼の花がざしな、其の頭髮を美化せんとする彼の可憐なる努力を、星霜十歳又二十歳の後爾が生命を美化せんとして淑女となり貞婦なる努力の萌芽は實に爾が選ぶ一輪の花がざしに宿るを。

クロンウエルの政を英國に執るや文を禁じ、華を除き裝飾を裁ぎ、儀容を退け劇場を閉鎖し、美術工藝品を委棄せしめ、市民を強いて只然り／＼古々々答ふる無愛嬌淡たらしめたりき、彼れ思はく人心之れによりて奮起すべく風教之れによりて興るべしと、而かも人性自然の反抗はクロンウエルの鐵腕の壓政のみ僅かに之れを抑壓し得たりき、彼の死するや人心は忽ち勃然として其の自然に就き却て其の常を失し、クロンウエルの後の社會の淫恣なる遙かにクロンウエル以前に倍せり、質素儉約を旨とし文武を勵めその專制的訓令に對しても尙ほ「かほごうるさき者」はなし文武文武と夜も眠られずと諷刺する者あるは將に破綻せんとする人心噴火の前驅者にして、橋下に渦く焚煙は贅澤も又人生の必需の者たるを表はすならずや、專制治下已に然り況んや專制的たり得ざる今日に於てなや、故に吾人は云はんぞす人性の自然は導くべくして阻止すべからず、誘ふべくして退くべからず、殊に其の審美的情緒に於て其の最も然るを見る、哲人は云ふ眞善は眞美にして眞美は眞善なりと、美の實觀を不具たらしむる者は善惡識別の觀をも不具たらしむる者ならずや、美觀を度外視する者は道德の根本を破壊する者ならずや。



大正四年度定期備船に就て

十九三生

注意

- 一、本稿は大正四年六月一日迄の定期備船なる事。
- 一、本稿に所謂本邦社外船の意義は本誌第八十七號に於けるものと同一なる事。
- 一、本稿は在邦社外船中噸數一千噸以上の貨物船の定期備船に關するものなる事。
- 一、本稿に唯單に噸數と記せるは重量噸數（燃料炭共）なる事。

通常定期備船の引合は十一月頃より弗々初まり二月三月最も盛にして四月の末より五月の初に至りて一段落を告げるものである。本年は歐洲戰亂の結果世界海運界異常の好景氣を呈し本邦海運界も亦殆ど狂亂の狀を示したる爲め本年度定期備船は其數に於て將又其の備船料に於て例年と大に趣を異して居る。元來船舶の進水沈没等の如きは比較的正確に一般

に報道せらるゝものであるが賣買及定期備船等に至りては商略上殊更秘密に付せられ賣買代價備船料等の必要條件は特に不正確なるを免れないのであるが今大正四年度の定期備船を概説すれば左の如きものである。

本年度定期備船成立總數は六月一日迄に於て一七二隻六六五八九二噸の多數に上つた。此の内六月一日迄に滿期解約となりしもの苦情破約となりしもの及本船沈没せしもの七隻二〇四八〇噸及 Sub-charter 二隻八七二七噸を差引き正味現在定期備船は次の通りである。

今是等の定期備船は何月頃に最も多く成立せしものなりやを知る爲め次に定期備船成立月別表を掲げる

大正三年十月迄	隻數	噸數
同 十一月中	一六	七二一六六
同 十二月中	一〇	四〇八八〇
大正四年一月中	七	三五六九一
同 二月中	一八	六七七六二
同 三月中	四五	一六九八八二
同 四月中	四〇	一四二四一三
同 五月中	二七	一〇八三一八
同 五月中	九	二八七八〇

即ち其大部分は二月乃至四月に成立せるものであつて此三ヶ月の成立數は實に一一七隻四二〇六一三噸即ち隻數に於て

六八%噸數に於て六三%の多數に達して居る。實に二月三月の頃は定期備船の接戰時期であつて船を得んとするもの船を有するもの及其間に介在する Freight Broker の三者の活動實に目覺ましきものである。

次に是等定期備船は何千噸級船に於て最も多きやを見る爲めに定期備船噸數別表を掲げる。

噸數	隻數	噸數
七〇〇〇噸以上	七	五五五二六
六〇〇〇噸級	八	五〇四二七
五〇〇〇噸級	一一	六一二四六
四〇〇〇噸級	五〇	二二三四八
三〇〇〇噸級	四六	一五八三〇六
二〇〇〇噸級	四〇	九九二八六
一〇〇〇噸級	一〇	一七三三三

即ち四千噸乃至二千噸級船にて全體の約八〇%を占めて居り特に四千噸級及三千噸級船にありては其の現在數の約八〇%前後が定期備船せられた有様である。更に備船者に就て調べて見るに外國人全體を一人と見れば備船者の數は全部で三十三人である。全部を一々掲げるは煩に過ぐるの虞があるから次に二萬噸以上の備船者のみを掲げる。最も之は解約沈没及 Sub-charter を除きたる實際船線權あるものゝみである。

外國人	隻數	噸數
三井	二〇	一三二五五
郵船	一五	八六七八二
松昌洋行	一〇	五五九五三
山下汽船	九	四七六四七
勝田商會	六	三七一七〇
炭礦	六	三九五二〇
三菱	五	三三五一〇
三	五	二〇九〇〇

而して前記三十三人の備船者中には三井三菱の如き自己の貨物運送用に備船せるものもある又郵船商船の如く主として其定期航路船の補充として備船せるものもある。之に反して山下勝田の如く貨物を有せず又定期航路を營す全然海運業に従事する目的にて備船せるものである。今本年度の定期備船に就て極く大體の標準により之を海運業者の備船と自家用備船とに大別すれば次の通りである。

特殊用途充用船(註一)	隻數	噸數
自家用定期備船	四五	一六〇二〇六
運洋就航船(註二)	三九	四一八五二
海軍御用船	二	二〇九五〇
合計	八五	一三三三〇

右四者を差引きたる残り即ち現今運賃市場に現れ来るべき船腹は次の通りである。

隻數	噸數
九六隻	二七二八八五噸

而して前に述べたる海運業者の定期備船は四四隻一四六三四三噸であつて今等海運業者十四名の所有船及船腹の合計を調べて見ると二三隻六九〇六五噸であるから此兩者を合計したるもの即ち海運業者の船腹は左の通りの多數に上るものである。

隻數	噸數
六七隻	二二五四〇八噸

而して此六十七隻二十一萬五千餘噸の船腹を現今運賃市場に現はれる船腹總數九十六隻二十七萬餘噸と比較して見ると其の割合は實に隻數に於て約七〇%噸數に於て約八〇%の多數を占むるの同様であつて殘餘の二九隻五六四七七噸は比較的小型船にして一地方に局限せらるゝもの多きが故に茲に海運業者間(註三)に

一種のトラスト的默契成立し盛に運賃を煽り立て又は其の低落を防止せんとして居るとの風説行はるゝに至つたものである。是れ本年度海運界に於ける特殊の現象と見るべきものである。

註一。特殊用途充用船とは本誌第八十七號七四一頁に掲げし所のものであるが現在の特殊用途充用船と當時のものに比し多少の變動がある。

註二。運洋就航船とはCharter baseによる歐洲其他の遠洋航路就航船及純粹の航路備船による遠洋就航路の合計であつて外商の定期備船は之を含んで居らない。

註三。海運業者中特に山下勝田内田上西等の間に斯の如き默契成立し居れりと傳ふ

元來定期備船の備船料と航路備船の運賃とは共に船舶の収益力を示すものであつて同一物を面を異にして見たるに過ぎないから運賃高ければ備船料從て高く備船料安くなれば運賃亦下落するものである。昨年來の海運界は歐洲戰亂勃發の爲め種々の原因によりて運賃騰貴し備船料亦從て高率となり本年度の定期備船料は之を昨年度に比すれば異常の騰貴を示して居る。今備船料決定原因中

一、本誌名件即ち船腹石炭消費量運力本船總運等
一、航行障礙
一、備船期間
一、備船者

等を顧みず噸數の大小及契約成立時期の二點のみにより本年度定期備船につき大膽なる平均を試み備船料月次變動の狀態を示せば次の通りである。尤も左記の數字は重量噸數一噸一ヶ月の備船料である。

噸數	噸數	噸數	噸數
三、五〇〇噸級	一、九〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
三、〇〇〇噸級	一、六〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
二、五〇〇噸級	一、三〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
二、〇〇〇噸級	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一、五〇〇噸級	〇、七〇〇	〇、八〇〇	〇、八〇〇
一、〇〇〇噸級	〇、四〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇

註、昨年度の調査は充分ならず従て本表の價値少し。

即ち四千噸以上の遠洋就航可能船にありては備船料騰貴の割合殊に著しく八〇%前後を示して居る。四千噸以下に於ても尙二八%以上五五%の騰貴であつて本年度海運界の活躍想像するに難からずであらうと思ふ。

次に本年度定期備船界に於て著しき現象の一は Sub-charter の多かつた事である。例年とても Sub-charter は無いではないが今年の如きは未だ嘗て其の例を見ざる處であつて松昌洋行の如きは備船料の鞘を利して Sub-charter せんが爲めに備船しつつありさへ噂せられし程である。今本年度の Sub-charter を見るに總數二二隻八七二七噸の多數に上つて居る。其の内重なるものを擧ぐれば

即ち四千噸以上の遠洋就航可能船にありては傭船料騰貴の割合殊に著しく八〇%前後を示して居る。四千噸以下に於ても尙二八%以上五五%の騰貴であつて本年度海運界の活躍想像するに難からずであらうと思ふ。

次に本年度定期傭船界に於て著しき現象の一は Sub-charter の多かつた事である。例年とても Sub-charter は無いではないが今年の如きは未だ嘗て其の例を見ざる處であつて松昌洋行の如きは傭船料の鞘を利用して Sub-charter せんが爲めに傭船しつつありとさへ噂せられし程である。今本年度の Sub-charter を見るに總數二二隻八七二・一七噸の多數に上つて居る。其

岡崎汽船 二 六五六〇

等であつて其他一隻づつの Sub-charter は八口ある。Original Charter Sub-charter との備船料の差は兩當事者の關係如何によりて大に異なるのであるが其の利鞘の甚に大なるものは左の如きものがある。

Original C. Sub. C. Differ

山下より炭礦へ 愛國丸 七、〇〇〇 一、七〇〇 五、三〇〇

岡崎より炭礦へ 蔚山丸 八、一〇〇 二、〇〇〇 六、一〇〇

小寺より松昌へ 青島丸 五、五〇〇 八、七〇〇 三、二〇〇

加藤より小栗へ 目尾丸 六、八〇〇 九、〇〇〇 二、二〇〇

日下部より郵船へ 神王丸 六、五〇〇 八、五〇〇 二、〇〇〇

此外外國人へ Sub-charter せられしものは與安丸の如き Original Charter Money 八千圓なるに對して壹萬貳千圓の鞘あるものあり又最近 Bangkok Trade Sub-charter せられし第一多聞丸及日連丸の如き中型船にて尙且五千圓以上の鞘を利して居るものがある。(四六、一一稿)

最近三ヶ年間本邦石炭輸出狀況並に本年輸
出豫想 (二)

同僚會員 山本 定次

第三章 外國船燃料

過去三ヶ年間の日本内地各港積取の外

國船燃料の數量は次の如し。

	一九三三年	一九三四年
門司、若松	五三、七〇〇	五三、七〇〇
長崎	三九、一〇〇	四一、一〇〇
三池、口ノ津	三六、六〇〇	三六、六〇〇
住ノ江	二七、三〇〇	二七、三〇〇
神戶、横濱	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
北海道各港	四、〇〇〇	四、〇〇〇
唐津	二、〇〇〇	二、〇〇〇
合計	一六六、四〇〇	一七五、七〇〇

右表に見るが如く一ヶ年先づ百五十萬噸にして、之が外國送荷物と合計して日本炭總輸出高となるなり。今其の各港に於ける消費を語る前に先づ積取船の内容を知るの要あり。

○門司若松

門司港は一ヶ月の積取高平均四五、〇〇〇にして其の主なるものは Peninsular & Oriental S. N. Co., Hamburg America Line, Canadian Pacific Railway Co. 青島線 Inner S.S. Co. India Line, British India Java-China-Japan Line, Standard Oil Royal Mail Eastern & Australian 等にして是等の船主は一ヶ年先づ三〇〇、〇〇〇噸乃至三五〇、〇〇〇噸残部は Tramp Steamers の積取に依るものなり。

若松に於ては外國船の特に燃料のみ積取るため來航するもの無し、只臨時に雇船したる外國船の荷物積取の序でに燃料の補給を受けるのみなり、兩港共筑豊炭を供給す。

○長崎

九州の南西端に位する本港は港内水深

くして風波の恐無く燃料積取に適し、先づ

N. D. Line.	亞米利加郵船會用船
Great Northern S.S. Co.	Pacific Mail
A. Hall Line.	Russian Voluntary Fleet.
Canadian Pacific Ry. Co.	Northern S.S. Co.
Royal Mail.	

等燃料として重要な顧客極めて多く、大正二年度に於て四十五萬噸の供給をなせり、其他は Ben-Liglen Line, 等の歐洲雜船主にして前記四十五萬噸の中約三〇、〇〇〇噸を占む、供給炭種は肥前炭、三池炭及筑豊炭の一部也。

○唐津港

大會社定期船の寄港殆んど無く、一ヶ年十萬噸に過ぎず、近來本港の燃料積取港として、港内並に炭價の點より良好なるを認めて外船主の積取増加の傾向あり Russian Voluntary Fleet, を第一として、Rickmers Line, Shire Line, Ben Line, Glen Line 等之れに次ぐ、船主の性質長崎の如きと全然其の趣を異にするを以て、積取數量の大ならざる又已むを得ざるものと言ふべし、炭種は唐津炭に限らる。

○三池及口ノ津

兩港共三井の獨占にして他會社の關係全然無し、三池は會社が巨資を投じて完

成したる專屬の石炭積出港にして、港内及積込に嶄新の設備を施して、各船に Quick dispatch を與へ船主の積取を誘へり、現在に於ける兩港船主の主なるものは、

Java-China-Japan Lijn.	Standard Oil.
Butterfield & Swire.	亞米利加郵船會用船
N. D. Line.	Ben Line.
Glen Line.	Shire Line.

にして其他多數の雜船主の積取を加へて年内需要三十萬噸なり、炭種は勿論三井の三池炭其の全部なり。

○住ノ江

臨時荷物積取の爲め雇船せられたるもの、燃料補給のみなる事若松と同様なり。

○北海道各港

小樽、室蘭、函館の三港にして、定期大型船の積取無し、只 Tramp steamer の北支那、浦沓方面に至るもの及 Russian Voluntary Fleet 等を加へて一ヶ年五〇、〇〇〇噸の需要に過ぎず、外國船燃料積取港として、重要な地位を占めず炭種は北海道炭に限らる。

○此の外に敦賀に露國義勇艦隊の寄港あり、神戸に佛國郵船定期船の來航及其他雜船主の積取あり、横濱に太平洋汽船の

積取あり、之等を合して一ヶ年合計十萬噸見當の需要を見る、炭種は地元より内地送りとして積出されたる、九州炭、北海道炭を以て供給せらるゝもの也。

扱て今其の積出の状況を見るに、一九一三年度は、一八三、二〇〇噸の増加、昨年度は一昨年度に比し二三四、九〇〇噸の減少を示せり、一九一三年度は其の前に比し約一五〇、〇〇〇噸の増加を見て一、三九〇、〇〇〇噸に達したるものなるが、之れ莫炭、印度炭不足の間接の影響をも受けて好結果を來したる點もあれども、主として海運界の好況を呈したりしによるものにして、英印兩汽船、伊太利亞メールの新航路、H. A. L. N. D. L. A. Holt Line, Pacific Mail 等の自然需要増加ありたり。

大正二年度に於ては、門司は、H. A. L. 及 Royal Mail の米國新航路開始によりて其の需要を増加し、其他英印汽船、スタンダード石油、伊太利亞郵船 Rickmers 等の積取旺盛と共に元年度よりも四三、〇〇〇噸の増加を示し、長崎渡四五、二〇〇噸の増加は Pacific Mail 新造船積取と青筒の積取によるものなり、三池、口ノ津兩港は J. C. J. L. 青筒 Royal Mail を

筆頭として其他 Standard Oil 歐洲雜船主の東洋に廻航するもの此地積取の非常に多かりしによるものなり、其他各港亦需要の自然増加によるものなり要之一九一三年度は新造船の廻航、新航路開始等あり一般海運の好況と、小型外國船の來航増加と相俟つて、以上の好成績を收め得たる事は、此の年が、主として外國に於ける燃料用炭として積出さるゝ荷物が好況を呈したりし時期と相一致するに想到せば更に了解し易かる可し。

昨年度に於ける減少は時局のため廻航船の不振に原因するものなる事既に荷物の章に述べたるが如し、即ち時局勃發の當初軍艦供炭の目的を以て荷物、燃料の積取に景氣を占めたるものもありたれども之れ一時的突發の需要に止まり、永久的性質のものに非ず、先づ、門、若に於て平素毎月約五〇、〇〇〇の積取ありしもの、年間統計は一昨年比し一一三、四〇〇噸の暴減を示せり、之れ H. A. L. N. D. L. Rickmers の廻航中止と P. & C. India Line, British India, C. P. R. 及 M. M. 等の一部減少によるものなり、長崎に於ても同様 N. D. L. Great Northern C. P. R. の減少、三池、口ノ津に於て N. D. L.

Rickmers Line の廢航を筆頭として、歐洲に於ける各船の徵發、獨艦の横行、貿易の支障により Tramp steamers 東洋廻航の數を減じ共に、如上の不結果を表はしたるものなり、加之昨年度は一昨年度の如く、特別需要増加の新航路のものとして、北獨社荷物線位に止まり、他方に於ては、却て舊航路の廢止せられたるものもあり、又一般一昨年來の海運界の好況も其絶頂を過ぎたるの感あり、更に東洋に於ける日本船々腹の増加は、外國船の東洋廻航を稍々減じたる事明らかにして之等の原因は、各社線從來の積取増加と相殺せられて、一昨年度より別に増加を示さざるやに想像せられ居たる程なれば、之れに時局の影響の加はるありて其の間の消息を説明し得たり。

第四章 本年度輸出の豫想

本年度輸出炭が如何なる結果を示すかに就て、先決問題は歐洲戰亂の經過如何にありと言ふ可し、歐洲戰亂終結の時期は何時なるべしとの豫想は最難事にして斷定を許さざる可く、戰爭開始當時の豫想は、先づ長くて本年六月迄なるべしとなしたるもの多かりしも、已に五月に入

るも、戦局は聯合軍に有利なりと傳へらるかと思へば、他方に於て獨逸の奮闘目覺ましきものあり、殆んど其の實情を捕促する能はず、本年初我國に來遊せる戦争通の一佛人は Eighteen Months after と主張せり、佛國人其の自身は戦争の終結を來年六月と信するもの、如し、而して更に仲裁を豫想するものあれば他面に三ヶ年を覺悟するもの等ありて、實に其の豫測に苦しむ次第なるが、從つて對歐貿易の復活、戦後の大景氣時代、各船の東洋出遊、支那各地の事業勃興より來る需要増加等より、本邦炭輸出大活躍を見るの時期到來は炭業者の到底豫見し得ざる處なり。然其要之目下の状態にては本年中は其の終結は希望せられざるべしと斷定し得可く、假令幸にして終結を見て吾人の豫想が反したりとするも、尙ほ戦後直ちに廻航船の増加は期する能はざる可く即ち第一獨逸船の例に見るも、開戦以來昨年十二月迄に捕獲又は撃沈せられたるもの四百隻總噸數百萬噸に垂んとすと傳へらる、其の中大會社に屬するものも多く、又獨逸側の爲めに聯合國側の商船、同様の運命に遭ひたるもの幾何なるを知らず、是等の中東洋廻航に従事したりし

ものも尠からざる可ければ、戦後經營上の問題を提げて起てる是等の諸會社が、よく平和克復後直ちに從來の航路に就航し得可きや否や疑問なり、因之觀之、戦争が本年中結末を見る可しとの豫想を許さざる以上本年中輸出炭増加の動機は發生の餘地無かる可く、殊に石炭の景氣なるものは一般財界の景氣に後れて、之れに追隨するものにして、之れ日清日露兩戦後に於ける大景氣時代の例證に見る如し、戦後景氣のため起れる諸事業の稍々確固たる基礎の上に立つに及びて、初めて確固たる石炭の需要を喚起するものなるに於てをや、此の點より論じて支那方面、平和克復、借款成立後に非ざれば實際の需要増加は望まれざる可し、かくて先づ本年中石炭景氣恢復輸出増加絶體に無しと斷言して憚らざる可し。

於此、歐洲戦亂の我輸出に何程の影響を與へたるか、更に、其の影響の程度は本年四月より十二月迄の輸出に *and* 出來るや否やを詳細に研究する事は、目下の炭況を論ずるもの、最も重要な問題にして、其の觀察若し正鵠を得ば、本年中の輸出を明かに物語り得可しと信ず。

此の點に關して日本炭全體の材料に乏しきを以て、

今九州宛のみに就いて其の消息を見んと欲す、蓋し日本炭輸出の殆んど全部と稱するを得る九州炭なるを以て其増減は素より戦時影響の大勢を語るに充分なり。今開戦以來即ち昨年八月より本年三月迄八ヶ月間の實績を見るに

○荷物

開戦後八ヶ月間合計	一、八〇〇、〇〇〇
前年同期合計 (大正二年八月)	二、三〇〇、〇〇〇
前年同期合計 (同三年三月)	五〇〇、〇〇〇
減少程度	六二、五〇〇
此月割	五三、七五〇

此の月割によつて見れば一ヶ年七十五萬噸なるべく、之れ即ち、戦時一ヶ年の打撃なり、但本年八月に入らば、其の状態は昨年八月以降と同様なるを以て、本年七月迄の減少を見て此の點より荷物丈昨年度より四三五、五〇〇噸の減少を示す割合なり。

○外船燃料

開戦後八ヶ月間合計	五五〇、〇〇〇
前年同期合計	九八〇、〇〇〇
減少程度	四三〇、〇〇〇
此月割	五三、七五〇

戦争の一ヶ年間の總打撃は六四六、〇〇〇噸にして昨年の統計に比する減少は本年一月より七月の七ヶ月間即ち三七六、二五〇噸なる計算なり。

されば結局荷物、燃料を合計すれば、昨年度より本年度の輸出は、八一、七五〇噸の減少となる可し、之れ前記月割より見たる数字的觀察なり。

次に吾人は今眼孔を轉じて戦争の影響を仕向地別に研究するに

○荷物

仕向地	昨年自一月 同自八月至 差
上海	七、〇〇〇 六、一〇〇 (一) 四、八〇〇

香港、廣東 八、七〇〇 三、八〇〇 (一) 二、九〇〇
比 律 資 三、八〇〇 三、八〇〇 (一) 二、九〇〇
蘭 領 印 度 九、一〇〇 八、七〇〇 (一) 四〇〇
新 嘉 坡 三、一〇〇 三、一〇〇 (一) 八、五〇〇
其 他 三、八〇〇 三、八〇〇 (一) 六、八〇〇
計 三、一〇〇 三、一〇〇 (一) 四、六〇〇

右によれば月割四二、六〇〇噸なるが、之れを別表荷物月割 六二、五〇〇噸に比較する時は符合せざるが如き感あるも、此は當然の事にして即ち前表に於ては一昨年八月より昨年三月迄の統計にして、而かも需要期に遭遇し、未だ市況旺盛の餘波を存したりし時と、戦争によりて蒙る損害の程度最悪の月たる昨年の十一月、十二月を含む八ヶ月間を以て比較したるものにして、本表は昨年上半年の市況不振積出閑散の時期と、下半年とを比較したるものなり。

今右の表による増減は已に説明したる處なるを以て繰返す必要なき次第なるが、最も打撃の深甚なりしは香港及新嘉坡にして、蘭領印度の積出大差無かりしは當然と言ふ可く、上海亦大したる損害を見ず、只比律賓の増加に至りては一ヶ年を通じては減少を示し居り尙ほ且つ下半期は陸軍納漢洲炭納入の關係もあれば當然減少す可き等なるもの却て増加を示せしは要之獨逸關係筋の需要大なるものありしによるものなり。

○外船燃料

積出地	昨年自一月 同自八月至 差
若 門	八、〇〇〇 八、〇〇〇 (一) 二、九〇〇
唐 津	六、五〇〇 六、五〇〇 (一) 一、五〇〇
長 崎	三、五〇〇 三、五〇〇 (一) 一、〇〇〇
三 池	九、八〇〇 九、八〇〇 (一) 二、六〇〇
口 津	一、五〇〇 一、五〇〇 (一) 二、六〇〇
其 他	一〇〇 一〇〇 (一) 一〇〇
計	三、一〇〇 三、一〇〇 (一) 四、六〇〇

燃料に於ては、門司、長崎に於ける打撃頗る大にして、月割四三、六〇〇噸の減少を示せり、之れ兩港が定期船の燃料積取港なるによるものにして、口ノ津の如きは N.D.I. の廢航を見られども、尙ほ青荷船の間斷無き積取ありしによつて、暴減を免れ得たり、本表の数字は前表の五三、七五〇の月割減少と略相一致せり、之れ一昨年八月より昨年三月迄に對し昨年一月より七月迄の間の積取の程度は荷物の如く差異を示す原因無きを以てなり。後表による数字の稍々減少の程度少なりしは、C.E. ミネソタ、等の積取が開戦後稍々後れて減少したりし爲め、昨年八月より十二月迄の間の数字に對し昨年八月より本年三月迄の数字の如く大きく動かざりしによるものなり。

扱かくの如くして、仕向地及積取地より割出したる、減少の数字による時は本年一月より七月迄の間の合計は、六五三、一〇〇にして先に示したる八十萬噸と共に、数字的に觀察する時は本年度の輸出は六十五萬噸より八十萬噸の暴減を見る形勢にあり。

然共之れを以て本年度本邦炭の輸出を豫想し得たりとすは誤れるの甚しきものにして、元より石炭業者としてかゝる誤見に陥らざるは明かなり、依つて吾人は更に其の内容に付て研究を重ねるの必要あり。

(一) 今荷物積出減少の状態を見るに、昨年十一月及十二月を以て最悪の月とみなし其の程度最も大なり。

昨年十一月より昨年十一月との比 (一) 二、六〇〇
同 十二月との比 (一) 二、六〇〇

にして何れも十萬噸以上に及べり、之れ時局の影響を最も痛切に感したるの月にして、支那沿岸需要減退の極に達し、新嘉坡方面、印度方面、獨逸の暴行あり、加ふるに、内には Double Bond System 及 War Risk の問題あり、爲めに此の結果を來したるものなり、而

して本年に入り敵艦隊の撃退は、自然に Double Bond 條例の廢止と War Risk の輕減とを誘ひ更に、貿易は所謂戦時の常態に慣れ來りたるため稍々常調に復し、沿岸船の廻航増加を來したるを以て、積出荷物稍々増加の曙光を認め前年同月に比するに減少の程度は次第に輕少となり。

三月 六〇、五〇〇 四月 二九、〇〇〇

となりたり、かくて昨年十一月を以て一境界をなし、其の以後一變轉をなし積出漸次復活し來れり、されば五、六、七月と順次に八月に入る迄は減少の極度次第に輕減すべきは言を俟たず、殊に昨年四月以來は既述せし如く、各方面市況不振積取閑散なりしかば、本年の右三ヶ月は減少の歩合、一月より四月迄の大れよりも良好となり來る事明白なり。

更に八月以降に至りては、蒙れる結果の大なりし昨年十一月、十二月の夫れと逆も同様に論じ得られざる可く、次第に貿易の順調と出廻船の増加、各港積取の復活、一時中止の諸事業の操業、支那輸出の努力、爲替の復活等、比較して有利の材料を見出し得可く其の積出の増加を示す可きは、現在より見て明かに想像し得らるべし。

尙本年度の積出を仕向地別に觀察する事次の如し。

○上海及長江筋

既述せし如く時局の打撃による船舶の燃料減少の割合少なき市場なるを、殊に日本炭供給過剩の結果處分物の當年間に現るべければ昨年と略同様なるべし、日支交渉行儀、日貨排斥の聲盛んにして、一時取引に影響したるも大勢に關するに至らず。

○漢口方面

本年臨城炭が京漢鐵路の安運賃を利用して當市場に現る、もの多大なるべしと傳へられ、且つ、最近暴

動の類々として起るあり日本炭荷動き障害を來す怖あるも、尙ほ漢陽鐵廠、四萬噸の需要及其他も漸次日本炭の手に收められつゝあれば之亦昨年度と同じかる可し。

○香港廣東方面

獨逸船需要の皆無と、他方開平炭の侵入あれども、日本炭荷捌きの必要上、安値賣捌きを試みて、或程度迄開平炭を牽制しつゝあるは事實にして一般の豫想するが如き積出の暴減を見る事無かる可く、只多少の減少は元より當然にして其の程度は蓋し五萬噸見當に止まり今年度の數字九十五萬噸を下らざる可し。

○比律賓

昨年度はQuarter Masterの契約無くして尙ほ三十萬噸の輸出ありたれども本年は濠洲炭を驅逐して右〇三、日本炭の手に落ち、此の口のみにして本年中七月以後七萬噸の積出あれば、其他の約定と共に昨年度より多少増加すべき見込充分なり。

○新嘉坡方面

日本炭例年の得意を失はず、只獨逸船及臨時外國船の積取少なきのみなれども、之れは馬來鐵道新嘉坡渡昨年度撫順炭に代ふるに本年度日本炭にて納入の事となりたれば、却つて昨年度より増加の傾向無きか、四十五萬噸は先づ間違無かる可し。

○芝罘附近

製絲工場の不振あれば、何う見ても昨年度よりは多少減少す可し、但、其減少は、青島への日本炭賣込によりて相殺せらる可く已に三千噸位は積出したる様子なれば、年間五千噸以上に至るやも知れず。

○英領印度

歐洲戰亂の爲め蘇士以東英炭の出廻大不足、乗すべき機會に乏しからず、船腹さへ甘く行けば、本年中三〇、〇〇〇噸の積出は豫期し得可し。

○蘭領印度

多大の賣込契約をなせるを以て本年中二十萬噸の輸出を見る可きは當然なり。

○太平洋沿岸及ホノルル

本年中の成約より推して少なくとも八萬噸の積出ある可く昨年度に比し三五、〇〇〇噸見當増加は明白なりと言ふ可し。

〇其他は多少増加の方面もあれど又減少の箇處もあり昨年度同様とすべし。
契約定の見當より言へば、先づ上記の如くにして、大體に於て間違無し、右によれば昨年度に比して減少の方面もあれども前年以來大局より打算して、遠隔市場、先物契約の危険を踏んで之れに成致し、極力海外賣捌に腐心せし結果此處に幾分の光明を見出したる感あり、是等の方面に於ける積出の増加が減少の方面を相殺するに足る可く、かくて大勢は昨年度の輸出と大差なき状態にあり、數量本年中三百萬噸を潜らざるべしと豫期せらる、此の仕向地別による觀察は、余が先に輸出の大勢は次第々々前年同月に比する減少の率を輕減し來り八月以後に於ては確かに前半年の不足を補ふに足る可しとの斷定の Confirmation たるものなり。而して此の點に關して稍々注意すべきは運賃と船腹の問題也、歐洲戰亂の勃發は船腹關係に如何なる影響を及ぼしたるや歐洲方面御用船の借上、海難、荷役滯滯其他の原因によりて船腹供給大不足の實を演じ、貨物船腹の需要大に増加し、運賃暴騰又暴騰、容易に停止すべくもあらず、於此てか日本船々腹の需要を呼び錚々たる日本船は皆此の巨利を收めんとして遠航路に

つきたるを以て、東洋方面大型船大缺乏を誘ひ、歐洲方面同様に運賃暴騰の渦中に投ぜられ、小型船も亦雜貨其他の有利なる運賃に耳を傾け石炭に走るもの尠なき現象を示せり。

今此の結果は、蘭領、布哇方面の如きは何れも船腹引當にて契約したるものなれば、賣主に於て船腹の責任あり、其れ相當の積出を見る可きもの、譬へば印度方面の如きは單に見込に過ぎざるを以て船腹の利用すべきもの無くんば三萬噸は愚か、五千噸の成約見込も無し、其他、新嘉坡、香港、浦沙何れの方面にせよ、結局運賃の暴騰は引合、成約を困難ならしめ、又船腹供給の不充分は積出の減少を來す所以なり、因之契約上より見て、各仕向地別に既述したるが如き折角輸出あるべしと豫期せらるゝ状態にあり乍ら、此の爲めに事實に於て積出の阻止せらるゝ怖ある事を考慮せざる可からず、而かも此の運賃は本年中は其の儘押通すべき大勢にあるに於てなや、

(二) 外國船燃料に於て各積取地に付き今後の状況を豫見するに、

○門司、若松

四月よりは Canadian Pacific Railway の "Montevideo" 及 British India の廻航開始あり昨年十月、十一月頃よりも増加し來りたり、只 M. M. H. A. 及 Tramp steamer は四月以後も矢張り同様に積取減少あり先づ一月より七月迄に十四萬噸見當の不成績なる可く、之れが、八月以後は昨年よりも増加す可きが故に此の程度によつて二萬噸位相殺せらる可く今年中二三〇、〇〇〇噸乃至三四〇、〇〇〇噸の積出を見る可し。

○長崎

通常に行けば三十萬噸を潜るべけんも八月以後は昨



談叢

修業式に於ける山本醫學士の衛生講話

ひの字

醫學士山本治郎平氏は老練の紳士にして醫術の造詣

深く現に神戸市醫師會長たり廣く内外人の患者に接し其の技量には在外國人に迄稱賛せらる。

水島校長の依頼に依り修業式に一場の講話を快諾下され日常衛生に關する微細なる點より詳細且つ有益に講話された長い休暇を目前に控えてある吾々の上に大いなる興味と安心とを與へられた。

記憶を辿りて其の要領を紹介せむ(文責筆者に在り)

凡そ四圍の狀況なり社會萬般の事柄は吾人の一般衛生に關係を有する事甚大であります、私は醫者として患者に接するの危険は醫者個人としての衛生となり他面に於ては一般の衛生思想にも應用せらるゝ所である故に私は此の方面より休暇に向はれんとする學生諸君に述べんとするのであります。

抑も個人衛生と云へば直ちに病的細菌を聯想す(時には下等動物を含む)如何なる健康體と雖も結核菌なり遺傳的梅毒毒性を有する事は化學的試験の結果容易に發見せらるゝのであります。

傳染病に就ては病菌は日光の抵抗力薄弱なるものなる故日光消毒等を爲すは之れ又個人衛生の一つにして注意深い人の常に爲す所である。

次にサルチル酸アルコールの一分溶液は如何に醫者等にとりて貴重なるかを述べんに即ち或る患者がチブスとか赤痢と

かの疑ひあるものならば、其の患者の居間なり家の内には微菌の充滿し居るものと假定して差支へなし、故に患者に觸れた手とか衣服、或は座敷に座りたるときは其の足の部分等は尠なからず微菌の附著し居るものなり、されば其の家を立ち去るとき直ちに其の部分にサルチル酸アルコールをガーゼに濕したるものにて拭き取れば茲に全く安全となり感染する事なし(病菌は空氣より傳染せず)此の事は早速學生諸君にも應用出來る例へば朋友とか親戚等にチブス患者發生し又は其の疑ひある人を病床に見舞ふとして其の實用を見るのである。

又ベスト菌は多くの場合に蚤が持ち來すものなるが一體に蚤は石油を忌む事甚だしき故古新聞紙を敷きて其の上に座する事はベスト菌を豫防し得る安全策である。

飲食物よりの侵入又は腐敗物等に就ては公衆衛生に關するものなる故個人衛生と兩々相俟つて完全に解決を見る。

蠅は最も恐るべき傳染病菌の媒介者なるが故に之れが防壓は一般の氣付かざる衛生法なりと、確信す。

方今藥價の暴騰は到る所に見る現象で

あるが醫者を困らせる事一通りではない
そこで貴重な薬價は数十倍に騰貴したる
を以て當地の一獨逸商人に命じて取寄せ
たのが此のインテスチアルミン (Intes-
tinalin) であつて口より入る微菌には何
等胃腸を害せずして殺菌の效を奏す著し
きを實見したのである曾て伯爵メチン
コー先生が謂はれた「人生の健康状態は
腸の長さの反比例をなす」と。

斯のブルガリア人の生活状態を調査し
た結果彼等はサウエルミルク (ブルガリ
ア乳) を常用なし居れるが爲にしてサウ
エルミルクは胃腸に於て糖化菌が糖化作
用を迅速に行ふが爲である、しかし特に
一大発見とも云ふべきは大腸の内にてブ
ルガリア菌の作用せざる事なり之れブル
ガリア乳の缺點とする所であるが此の、
Interestierin 及 Lactobacilli 及 Glycobacilli を
有するが故にサウエルミルクに優り大腸
に於てもよく其作用をなす故に腐敗せる
ものを食したるときは一錠の Interestierin
はよく殺菌の效を奏す故に諸君は日常
該薬を用意せられむ事を望む云々。

(大正四年七月二十日)

南米に於ける本邦 民と其將來

南米同志會委員 松波 正明

先づ之を論ずるに先き南米に於ける各國民數に就き
て一言し最後に南米事情に論及せん欲す。

南米に於ける人種を分ち白人、白人と印度人との混
血族、黑人、純印度人、にして之に加ふるに英、米、
獨、佛、伊、支那及本邦人を以てす抑も南米に殖民せ
しは一九四二年即ち今より四百四十二年「コロニア
ス」の發見以後の事にして西班牙人を以て嚆矢とす、
次に其の詳細を表示せん

人	口	密度	種	別
ブラジル	11,000,000	7	白(55%)混、黒、印、	
アルゼンチン	3,700,000	6.2	白(最大)印、	
ペルー	4,000,000	6.6	白(最多)印、混、純、印	
ボリビア	2,500,000	3.38	同右、	
パラグアイ	1,200,000	1.7	印、白、混	
ウルグアイ	1,200,000	1.1	同右	
チリ	1,200,000	1.1	印、白、混	
秘魯	1,200,000	1.1	印、白、混	
エクアドル	1,200,000	1.1	印、白、混	
コロンビア	1,200,000	1.1	印、白、混	
ベネズエラ	1,200,000	1.1	印、白、混	
ガイアナ	1,200,000	1.1	印、白、混	
スリナム	1,200,000	1.1	印、白、混	
ガイアナ	1,200,000	1.1	印、白、混	
スリナム	1,200,000	1.1	印、白、混	

伯刺西爾 四、二九二

亞爾然丁 二四〇

秘魯 五、一六二

右の表に據るに其の最も多き秘魯に於ても僅かに其
の人口の 2/1000 に過ぎず、之を歐米人の夫に較べれ
ば亦遜色の大にありて存す、されば當局者も海外渡航
の自由を認め大に殖民に努めざる可からず。内部に於
ける人口の増加激しく生活難の聲喧しき我國の如きは
之れ實に國家の最大急務なりと云ふ可し。

南米の天産物。
南米は其の氣候的關係によりて護謨、棉花、馬鈴薯、
コ、ア、礦石、有用木材、牧畜、砂糖、咖啡、羊毛、小
麥等を産し天與の豐沃なる土地は他に其の例を見ず、
カリノコ河(一、六〇〇哩)の下流地方の如きは廣大な
るラースの平野にして牛馬は盛に牧養せられ其の耕地
は三十回の播種に對して僅かに一回の投肥を以て足る
と云ふを見れば如何に土壤の豐肥なるかを推知する事
を得べし。

秘魯チンチャ郡のチンチャ耕地にありて若し農に經
験を有し參千圓の投資をなさんには小規模と雖も尙ほ
能く一ヶ月五六百圓乃至壹千圓の純益を得るに難から
ずと夫れ南米は其の天然の状況によりて見るも寧ろ農
業國と云ふ可く我國と其の趣を同ふする點より見れば
本邦移民にして實力有る者土地を購ひ農業に従事し或
は牧畜に或は鑛業工業に投資し一方に富の増進に努め
他面新日本の礎を固めんには我國經濟上の發展期して
待つ事を得んか、國家の將來を慮るの士舉つて南米に
大志を延べ未來の勇飛を期せよ。

南米の風土
南米は其の氣候的關係によりて護謨、棉花、馬鈴薯、
コ、ア、礦石、有用木材、牧畜、砂糖、咖啡、羊毛、小
麥等を産し天與の豐沃なる土地は他に其の例を見ず、
カリノコ河(一、六〇〇哩)の下流地方の如きは廣大な
るラースの平野にして牛馬は盛に牧養せられ其の耕地
は三十回の播種に對して僅かに一回の投肥を以て足る
と云ふを見れば如何に土壤の豐肥なるかを推知する事
を得べし。

帶にして熱度高く且つ濕氣に富むと雖も

- 1、貿易風の吹く事
- 2、降雨多き
- 3、大森林ありて蔭を作り且濕氣を保つ事
- 4、熱帯下に高臺、山地多し
- 5、西海岸は南米洋の寒流に洗はるゝ事
- 6、南米洋に突出せる事

により氣候大に和げらるゝが故に殖民地として恰好
の地なり。之を地方別に從ひて論ずれば彼の四千哩の
長河アマゾン流域は森林鬱蒼として繁茂せる大西
洋上より吹き来る東風により其の熱度緩和せられ酷
暑ならず而して大體より云へば乾濕二期に分れ一月
より五月迄は雨期にして他は乾燥期に屬す、又母利比亞、
秘魯、エクアドル、伯刺西爾、グエテズエラの如き
は熱帯内に在るも氣候概して冷しく熱帯の炎暑を
知らずと云ふ。次に南米中最も暑きはグエテズエラの
カラカ、ステツパにして最高温度樹陰にありて九十八度
にしてアエノス、アイレスに於ては平均六十八度なり、
然るに同緯度地方と雖も高臺、山地の説は熱帯の狀を
呈すと雖も中部は温帶最高部は寒帶の狀を帯びて各
帶に産する天産物を有し其の地理的關係頗る有利な
り。氣候斯くの如くにして數年前迄は風土病其の勢を
猛ふせしも近時衛生に留意するに至り病害大いに減退
せられたり。風土病とは黃熱病、マラリヤにして後者
の爲に斃るゝ者殆んど無く、二週間療養せば全治し
生命に別狀なしと云ふ。南米に於ける死亡數を見るに
伯刺西爾の中部バイヤに於ては千人に對し十八人、南
部クリチバにありては十五人にして、我東京の十九人
に比し却つて少率なるを見て亦其の健康地なるを知
る事を得べし。

最後に我對南米貿易の消長を見るに即ち左の如し。
年次 墨西哥 秘魯 智利 亞爾然丁 合計
明治三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治二十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治三十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治四十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治五十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治六十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治七十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治八十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十一 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十二 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十三 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十四 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十五 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十六 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十七 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十八 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治九十九 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
明治百 三三三 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇



悲痛なる生活

(談氏と貴氏とを想ひて)

一般に近代人の生活と云ふ内にも全く

色彩の違つた二つの生活が含まれてゐる。

一は理想を超現實的な彼岸に求め目的
を過程以外の地點に置く抽象的理想主義
者の生活と、他は理想や目的やを否定し
て偏へに現實や過程の流轉の中に没頭す
る現實主義者の生活とが、即ち是なのだ。
然しながら此の兩者は未だ眞實の意味に
於ける生の核心に觸れてゐない點に於て
其の軌を一にしてゐると思ふ。何となれ
ば、生の眞義は自己を燃焼し全我を挺す
所にのみ存在するからである。若し自
分達が抽象的理想主義者の空想や、現實
主義者の不徹底とに満足するならば、或
は生活の悲哀といふものに觸れずに終る
であらう。櫻路達秋氏(談氏)の所謂悲劇
の芽生を體內に植えつけずに済まされる
であらう。然しながら自分達は果して理
想主義者の様な二元的抽象的要求に止つ
てゐることが出来るやうか。低級なる現實
主義者の消極的要求に満足してゐること
が出来ぬであらうか。否、否、第一義慾
の覺醒を基礎とし其の上に建てられた健
全な根強は生活でなければ自分達は満足
が出来ないのだ。嚮に述べた様な空虚、
皮相、淺薄に飽き足らずに思ふ人々の生

活は必ず斯くの如きものでなければならぬ筈である。

(二)

されば近代人の生活に悲痛な色調を認めることは著しい現象である。けれども自ら現代生活の悲痛に打突かつた事の無い自分には、彼等の悲痛なる生活の奥底迄切り出してメスを振ふ譯にいかぬ。只達秋氏の悲劇の芽生によつて自分は溢れ出る泉を手を受ける様な理解を得た様に思ふ。そして氏の願正寺、大觀察などの上野生活の印象が再び鮮かに自分の頭に寫出されるのである。同時に自分は氏の深刻なる風采と生活と並んで顯はれる他の一つの、生の苦惱そのものの姿である貌を、思ひ浮べない譯にいかぬ。貴氏(鐘山寺氏)即ちその人であるのだ。若し眞剣といふことが自我の最深最大な要求に誠實であることであるならば貴氏や談氏の生活は眞剣なものはあるまい。

ニイチエが其の善惡の彼岸の中で云つてゐる様に、若し高貴と云ふことが先づ自己の内なるものを尊敬し、従て語ること、默することゝを理解する人であり、又甘んじて深刻と冷酷とに自己を鍛へ上げることであるならば、貴氏や談氏の生

活は高貴なるものはあるまい。今の功利主義的思想家は稍もすれば此の「深刻と冷酷とに自己を鍛へ上げる」ことから廻避しやうとする。是は彼等の論據より當然来るべき結果であらう。即ち眞剣な生活や、眞の意味の高貴な生活やは、物質萬能の現實主義者乃至功利主義者の眼には此の上ない不幸なものと映するのである、彼等は眞人生活の價值と、悲痛なる創造生活の中より生るゝ一種の歡喜を味ふことは出来ないのだ。

(三)

七月九日の大阪朝日は自分達に恐ろしい而も嚴肅な事實を傳えたそれは石黒博士の三男九六氏が十九歳の若い身で刺腹して果てたことである。そして長田幹彦の「自殺者の手記」の最後の利那まで讀んでゐたこと云ふ一事は、總ての事理を明瞭に説明してゐると思ふ。勿論自分達は感情的な稚氣満々たる厭世に與せぬ、云つて此の嚴肅なる事實を一智半解の同情無き酷評を以て葬り去る事は出来ない。自殺そのものは自分は絶対に否定すべきものであると思ふ。けれども最後の利那に到達する迄の若い人の血管を張り裂く如き苦惱、煩悶とに向つて自分は熱心なる同情と歎息とを惜まない。現代の所謂道學者望が、青年の眞摯なる思索と深刻なる煩悶に對するに、無理解なる高壓的態度を以てする一事は、自分の非常な不満とす所である。寧ろ是を善導して美しい同情と理解の熱涙を注いでやると共に、自らも思潮の渦巻の中心に身を抛げ込んで之が解決と慰藉とに努むべきではあるまいか。又自分

達に於ても空虚な概念や薄弱なる理想やに囚はれること無く、執拗なる官能の誘惑の手から逃れて、誤れる樂天主義にも墮せず、誤れる厭世主義にも陥らずに、鮮活なる生命感の上に確實なる生の歩みを踏んで行くことを努めねばならぬ。而もかかる生の歩みの前に必然的に來るべき悲痛なる淵の豫想を忘れずに。

(四)

談氏よ、貴氏よ、藝術を以て全生命とする人よ、眞剣な生活より外に知らぬ友よ。君等の生活には、ボタリ／＼と滴る毒汁の苦さはあつてもそれが何であらう、毒盃の底をた／＼いて一滴も残さず飲み乾して行かねばならぬ。部分的、分裂的生活は絶対の禁物である。飽迄全的要求に生きることであつてほしい。寧ろ將來や永遠の生活を棄てゝも利那々々の生の充實味を感じて行き度いと自分は思ふ。けれども請新なる生の味を求めると云つて山寮生活に入つた以來既に四閱月になつても未だ何等の新境地に入り得ない自分の生活を想ふと憐れである。行つては戻り、進んでは退く自分の廻避生活を顧みる毎に、自分はなせもつと談氏や貴氏の様な雄々しい生の「闘争」を敢てすることが出来ないのだらうと疑ふ。現代生活の純眞なる相は、「不斷の緊張と努力の結果創造される獨自の主義生活に生きる」

時にのみ、初めて見る事が出来ることは、自分も心得てゐる筈である。けれども斯くの如き努力は徹底的に全我に生きる懸命な覺悟が無ければならぬ。悲劇の芽生に驚かず、毒汁の苦さに堪え得なければならぬ。臆病な自分はかかる境地に近づき得ないことを思ふと熱涙頬を傳ふて下るのである。(蛙の聲する夜、櫻茶屋にて)

全校學で彌次となれ

溪 月

俺等は若いのだ、眞赤な血がグ／＼と脈搏高く全身を流れて居るのだ、あの緊張した試合場に、眞赤な旗を振りかざして、フレー／＼を絶叫する時、喉も裂けん許りに應援歌を高唱する時、何とも云へぬインスピレーションに打たれる。

俺等は意氣に感ずる男子である、熱情の燃ゆる青年である、純潔なる赤裸々の學生である。熱情と元氣と赤裸々なる眞摯の態度が、青年の生命——特色なる事が眞理であるならば、俺は斷言する、野次は青年元氣の發露であり、又一校々風のハロメーターである。

上下にチョンマゲ時代はいざ知らず、

現代に於ては野次なき學校の空氣は灰色である、氷の如く冷やかである、煉瓦の如く乾燥無味である。反之高潔なる野次ある學校の空氣は紅である、慈母の懷の如く暖である、うるをいある花の如く優美である。而して各學生の熱き心臓と心臓とを結び連ね紅色のリボンは、かゝる空氣圈内にのみ存し得る學校一致の大旗のフサである。

俺は今特に高潔なる野次と云ふ言葉を用ゐた、下劣なる野次は、之あるよりも之なき方を望むものである、俺等は勿論熱情に動く青年であると共に、自己の威厳を高調し、純潔高尚に生きる學生である事を忘れてはならぬ。正々堂々たる野次と、自己の威厳の高調とは相兩立し得べきものにして、少しも相背馳するものに非ず。然共かの野卑なる野次は、其の野次者自身の人格を損傷する事莫大なるのみならず、其の校の面目を汚す事僅少に非ず、牽いて他の學生の品性をも世人をして疑はしむるに至るべし、俺が野卑なる野次は、野次なきに劣ると稱する所以である。

要するに、野次は其の學校々風のハロメーターなり、高潔なる堂々たる應援團

を有する學校の校風は必ず健全であり、野次無き又野次有るも活氣無き學校の校風は沈滞せるもので、野卑なる野次ある學校に至りては其の校風必ず下劣であると斷言することを得る。

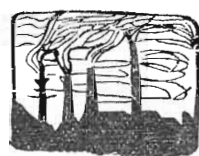
翻て我々の野次の現況を顧れば如何、吾人は慨嘆の外なきなり。我々に最も缺乏し、しかも其の補足の急を要する制は何ぞやと云は、俺は言下に正々堂々の應援團と答へん。現今の我應援團は其の量に於ても、其の質に於ても不満足な點が甚だ多い。量とは人数であり、質とは内容である。正々堂々の野次振りは、漸次衰へつゝあるかの様に見える、之は今春の庭球の三高戦及各クラス優勝旗試合に就ても、覗ひ知る事が出来る。繰返し云ふ、高潔なる野次の衰退は、健全なる校風の衰退である。眞に學校を熱愛する諸君!!眞に青年學生の誇を自覺せる諸君!!振て健全なる應援團に身を投じ、其の中堅となつて、沈滞せんとする我應援團を奮起せしめ、引いて我校風に新生命、新刺激を與ふるに努めよ、是れ男子の快事ではないか。

云ふ迄もないが、野次は眞剣でなくて、はならぬ、應援歌は腹のドン底から絶叫

せねばならぬ、理窟は兎も角、負けて涙の出ぬ野次は眞剣とは云はれぬ、然し統一なき禮儀なき不整頓の應援團は、其の實爲合の衆であつて、寧ろ神戸高商の恥辱であらう、

聞く九月末、日本庭球界の覇者を以て自任せる早門健兒は、クツツを並べて我城壁に殺到すと、我等の血は躍り、我等の骨は鳴るではないか。

全校の諸君!! 諸君の血にして眞紅であるならば、諸君の血にして温みを有するならば、自ら進んで應援團に身を投じ、之をして内容の充實せる正々堂々たるものにせざる不可。(四、八、九)



本校

學校日誌

六月十四日 教授石橋五郎從五位に叙せらる(六月十一日宮内省)

六月二十六日 原口教授より出願せる瑞西國を留學國に追加の件六月二十四日

許可せらる。

七月八日 本科第三年生本重志、神成彌七兩名に修學の爲本年夏期休業中蘭領印度地方へ旅行を命ず

助教授吉村龍藏に大阪市へ出張を命ず

七月十二日 助教授吉村龍藏に大阪市へ出張を命ず

七月十三日 本科第三年生今井富之助、河合悦三兩名に本年夏期休業中緬甸、印度及錫蘭地方へ旅行を命ず

七月十四日 本科第三年生田淵恂一に修學の爲本年夏期休業中上海、香港及新嘉坡地方へ旅行を命ず

教授小久保定之助に東京市へ出張を命ず

七月十六日 本科第三年生中村文夫、可部秀次郎兩名に修學の爲本年夏期休業中山東、直隸及滿洲地方へ旅行を命ず

七月十九日 本科第三年生鮎川善哉に修學の爲本年夏期休業中直隸、滿洲及蒙古地方へ旅行を命ず

七月二十日 授業第一時間後醫學士山本治郎平氏の衛生講話あり

右終て終業式舉行

明治神宮獻木の件及御大典紀念事業の件につき終業式後教授會開會

本科第三年生木村謙三、竹内象藏兩名に修學の爲本年夏期休業中西比利亞地方へ旅行を命ず

助教授岡田英定に石川、富山兩縣下へ出張を命ず

教授中川靜、小川忠藏に兵庫縣下へ出張を命ず

七月二十一日 教員伊藤弘に三重縣下へ出張を命ず

七月二十八日 教授勳六等中川靜勳五等に叙し瑞寶章を授けられ教授小久保定之助勳六等に叙し瑞寶章を授けらる(七月二十四日賞勳局)

八月二日 教授中川靜、小久保定之助叙勳につき午前十時勳賞授與式を舉行す(小久保教授旅行不在に依り中川教授代理す)

本科第三年生松原敬次に修學の爲本年夏期休業中比律賓地方へ旅行を命ず

願に依り久保山信一の雇を解く

八月六日 水島校長大分縣別府地方へ旅行の爲め出發す

八月十日 永安仙藏に雇を命ず(教務課勤務)



學友會

講演部

先山の頂を真正面に受けて本船は靜かに波を蹴立て、進んで行く、斜めに柔かに受けた西日が山の端にかゝつて島影は刻々に其の中を廣げて行く。山と海と追つた波打際を屈折して行く一條の路に土人が急ぎ足に往來する。

淡く煙つた様に洲本の町が見え初めた、針路は今し鐘紡の煙突を真正面に受けてゐた、靜かな海、煙る様な行く平の町、もー私は此丈で充分だと思つた、楽しい現實の涅槃に私は今眠るが如く恍惚として居つたあの太い入港を報らす、二長の笛聲に驚かされて少時樂しみの我から元の我に歸つた時には、もー船は樂港の入口に着いた居つた。

突堤の上に、可愛い女の子等が吾等の一行を迎える様に甲板の我等を始終見つめて居た、白い砂、青い松夕月に碎くる、金波銀波の海の静けさ、可愛い幾群かの子供達、何と云ふ美しい麗しい最初の印象であらう、私はこんな事があつても當時の此の美しい私の感じを忘れる事が出来ぬ、棧橋には安部社長と片山主筆とが我々を迎えて下さつた、吾々一行は喜悅を満面にたゝえて靜かに船を去つた安部さんと片山さんに導かれて濱づたいに特に吾等のために御世話被下つた當日の旅館三熊館に入つた、靜かに寄せては砕く小波の音、磯吹く風に奏する松籟の響、何と云ふ静寂として我等の一行を擁抱するもの、様であつた。

愉快なる晚餐を頂いて會場へ足急ぎで入つたのは八時近くであつた、大演公園の最も適當なあの地位に、自然の美と人工の妙を加えて出来上つた公會堂、何んなに快感を我等に與えたであらうか、我は多くを云ひ得ぬ、筆舌如何ともし難い事だ、此んな立派な會場で華やかに我が講演部が活動するのを思ふ時私は、眞に人生の大きな悦に接した、會場は華やかに電燈を以て裝飾せられ中央正面演壇には美しい松に夏菊をあしらつた生花を左手にしらへ、卓子、椅子の配置よろしく後部には華太に書かれたる當夜の演題が見事に掲げられた。當夜の出演者と題目は、

一、開會の辭 安部淡路新聞社長

一、商業家の品性と趣味を論ず 本一 關山 延君

一、資本主義的精神と我が國民性 本三 中村 作一君

一、生活難問題 講師 飯島 先生

一、日露貿易振興策 同 村田 先生

の順序で續行した、安部社長の本會を開催する目的及び吾等一行歓迎の辭に引きつゞき、本一關山君壇上に現はる、君は新進の雄辯家、利根の河畔に練つた辯には少し地方の訛はあるけれども、はつきりとした東京辯は氣持よく君の演説は終始飽かしめない、君は現代に於ける我國商業家の品性の下落を強く論じて現代英米人のそれに比し、巧みにロンクフォードの言を引用して、如何にも満堂の聴衆を感ぜしめた、更に商業は君子的人物が營むに於て初めて眞剣となり進歩するものなりと論じて再び坊間の實例を引き最後に趣味と品性を論じて漸次結論に進み歐洲の戦亂と我が國商人の品性に關係を及ぼして結ぶ、次ぎには本三の中村君、簡潔の論壇には今日まで餘りに出なかつた人

だが君は寧ろ深く思を廻らして而して後に語る人である今回の講演に君が参加せられたのも又思を深く巡らして後に語る可く否、淡路實業發展のために立たれたのである、君が劈頭第一、私は淡路で生れて淡路で育ち、淡路の天然の美に抱かれて淡路の麗しい人情に育まれて大きくなつた生粋の淡路つ子であります、名乗りを擧げて大に聴衆の注意を引いた、君の辯舌にはあまり接せなかつた一行も君の豊富なる思想と簡潔なる實例が、あの聞くからに六ヶ敷相な資本主義的精神と我が國民性をよく論破せしめた、拍手の音鳴りを洗めずして降壇。最初の豫定にては鹽崎君、その後を受けて出演の筈なりしも時已に十時をすぎたれば尙後に飯島、村田先生の御講演もある事なれば先生の時間を横取りしては申譯なき次第なれば已むなく鹽崎君を尙一日延期し直ちに飯島先生の御講演に入る、先生は御在學當時より學校の辯論部を引つゞけて關西の斯界に牛耳を取られし人なれば今更壇上の先生を云々す可きではない、先生の論旨は始終一貫智識階級の何れを問はず、その要點が頭にびし／＼と押しこめられる様に感ずる先生は生活難は一面に物價の騰貴をその原因とするも社會生活の向上はたしかにその原因の一面の眞理を語るものなりとて約四十分間談話せらる、その間聴衆は只悠然として先生の講話に釣り込まれて居るもの、様に見受た、先生の講話に次で村田先生出壇先づ日露兩國の國民性より説き及ぼして遠く日露戦役の因を尋ねて之を今日歐洲戦亂に於ける兩國の地位に演述し來たりその間に其く兩國國民性の機微を求めて今後の日露貿易に進み更に兩國の貿易取扱品につきて詳細に之を論ぜらる、しかもその間當地商工業者の利益休職に居るもの少なからず壇上壇下融合して講話は今や熟成して時の移るを知らず時已に十一時半、即ち司會

が一行代表して謝意を述べられた、かくて杯が盛に東奔西走した宴酣にして片山主筆も非常に昂奮した發辣たる意氣ある青年も及ばぬ様な語調で愉快の限りを述べて普く一行を歓迎するの辭を述べられた學生側を代表する國吉君が謝辭をのべ向かつ希望を述べられた。實業家と此處に親しく膝を交へて談ずる機會は今日が初めてであつた一行も無上の喜びに充ちてゐた、津田廣田小學校の校長が一場の歓迎を述べられた、土肥電燈會社社長が又美しい演説をして我等を奮勵せしめられた。

町長さんや、鐘紡工場長の中村さんや、淡路銀行の中村さん、實業銀行の山添さん、津名郡視學の稻見さん、三原郡視學の桑田さん、柳女學校長の柳さん、中學校長の今草さん、御醫者様の三島院長、三宅院長、奥村實業銀行の重役や、勝矢米檢主事、卒業生の鷺野さんや、池田、津田の兩校長其他町内の實業家鹽濱さんや前川、先田、三芳さん新聞社の安部、片山、十川堀口の諸氏仲々掲げる大變なものだ。

此んな錚々たる人々の間に交つて心行くばかり歡樂を極めた事を吾は誇りせせずに居られない、沖に汽船が入港の長い氣笛をならした、そら汽船ださ一行があらわてる、皆なの人々が此れから充分である名殘惜しうに止めて下さる、實際一行はたれも去りたくなかつた、行李早々、萬歳を叫びながら館を出た、三熊館の玄關口でう、を高くして高商の意氣を示した。

沖の汽船が我一行を待ち顔であつた、實際待つていて呉れたのだつた、九時半に解纜十五夜の月を頂いて東溪の波靜かな浦々を巡つて無事に歸着した、僕などは宅に歸つたのは月三更を過ぎ、曉星地平線に高かつた。

當夜吾々學生一行は主人側の好意に酬ゆるためにデ

者より已むなく後半の講演を明日に御依頼する事として此れにて閉會。

當日會するもの七百餘衆立錫の地なきまでに集る、夜の涼風遙かに簾幕より今宵の盛會を祝するが如く身邊に至る、仰げば十四夜の月は城趾の松に高くかゝりて白砂青松の間に縫ふ影の三四、樂天の供養を喜ばざるを得なかつた、今宵私共はその自然の美と壯を只無下に、打捨て、床の人となり得なかつた、乃ち又海岸を逍遙する事少時、漸く三更の鐘聲城山の麓に響くに驚かされて館に入る、嗚呼、喜悅と感謝に充ちた通俗講演會の第一日!!

澄み渡つた大空に輝いたあの星の契ひは御約束の様に好天氣、自然の美に抱かれて圓かなる夢路を辿つて居るその間にも私は此の海と山、靜かな兩つの美しさを充て得なかつた、東天旭日に輝く五時には一海えと突進した、小島の岩の上に上つて心行くばかり清潔なる空氣を吸ふた、眞裸になつて聲を上げた時の氣分は又何とも云ひ得なかつた、岡田先生を御同伴したらどんなに喜んで下さる事だらうと思つた、午前中は社長の御案内で城山を見物した、こんな雄麗な、壯宏な土地を何故世人はまだ知らないのだらう何故に下らぬ都會の全く人工的な擬溫泉や、機械的な、娯樂場に満足して居るのか知らぬ、一度此の島を離れた人はどんなに、あの都會性を帯びた人工的な、俗態極まる人寄場所を嫌惡する事であらう、頂上からは紀淡海峽がまるで自分の庭の様に見える、すべてが小じんまりした輪廓の中に雄大の氣が漲つて居る、天地自然の美の融合と云ふものも私は認めて知る事が出来た。

第二日の講演は午後一時開會左の順序にて之を行ふた。

一、國民性の鍛鍊

本二 藤澤 次郎君

一、實業家の驚異 本三 鹽崎 觀三君
一、日露貿易振興策 講師 村田 先生
一、目下の人口問題と國產獎勵 本三 國吉 省三君

一、人間生活の根本問題 本三 川島 浦次郎君
一、戦後の經濟的活動を論ず 本三 中川 松次郎君

一、美醜論 教授 小川 先生
一、閉會の辭 主筆 片山 滴園氏

前後八名の辯士であるから各自に充分時間を短縮して頂く事とした、藤澤君の溫好なる態度はよく君の論旨と一致して好感を聴衆に與へた様である、鹽崎君は簡潔へ入學以來の雄辯家、君の思想は高遠である云ひたい、凡俗の理解し難い點も少くない、淡路の智識階級は君が論旨を味つただらうが凡俗は理解に苦しんだであらう、希くば語の通俗化を加えられたい、君は何れか云へば智識階級の人、思想界の人であらう、其から村田先生の昨夜の御話を續けて頂く事とした、先生は三時半の汽船にて御歸り下さるので中途に御講演を願つたのである淡路の成功者を尋ねて、日露の舊來の交通をさき高田屋嘉兵衛を求めて更らに大正新時代の高田屋を出現せよと絶叫して降壇せらる。

時に三時、即ち半時間の餘裕を以て一同會館前にて紀念の撮影をなし十分間の休息を宣す、三時十五分開會國吉君立つて戦争の不可避性をさき軍國主義的見地よりして人口問題と國產獎勵をさき、次で川島君、元氣あるあの聲は一層元氣を加えて我國の現狀より我々國民性の開拓に及び一轉眞人の養成を絶叫す、最後に俚語あり、曰く「淡路良きこ、茅海受けて日本男子はこが産む」と。

一度國吉君の具體的戦争觀より一轉、川島君の抽象

カンシヨ、マガエの木會館を作つて大にメートルを昂げて來た。

淡路良きこ、茅海受けて日本男子はこが産む。

淡路良きこ、神戶を受けて出船入船敷繁し。

淡路、さき行きたがは淡路居よいか住みよいか。

(本魚生誌)

二府 巡回講演記

磯 次郎 記

二日前、淡路全土を震駭して意氣衝天の勢を示せる我が講演部は更に第二の活躍として暑中休暇頭五日間に亘つて大阪、京都二府並に縣下巡回講演を斷行した。我が講演部としては實に初めての試みである。

巡回講演は吾々が研究したものを獨り學校内に止め置かず、廣く一般に發表して、通俗化したる専門智識の普及を計り、併せて吾々修辭の一助たらしむるが眞の目的である。學校を廣告して歩くのとは譯が違ふ。

此の行に加つた者は本三では原田卓、中川松治郎、國吉省三、鹽崎觀三、樽谷勘三郎、磯上善次郎、本二では鶴田敏、塚本榮の諸君で都合八人。そして先生は小川講演部長、中川教授、渡邊講師の三人である。

第一日 (七月二十一日)

三の宮集合が朝の六時半と云ふ觸れ出しであるが、皆一流の辯士を氣取つて中々やつて來ない。早くから來られた小川先生に甚だ氣の毒である。出發時間は刻々と迫る。ヨモヤ向側で待つて居る様なこゝもなからうと思つたが念の爲め待つて見ると「六時から待つても、誰も見へぬ一體皆は……」と嘯鳴り付けやう

的眞人養生論に入り再轉中川君の具體的經濟政策觀に入る、中川君の美しい聲の響きは聴衆を一層喜ばしめることはその語句に難解の點少なきに於てをやだ、君の流暢なる市の廣く通俗體の講演には私は多く云ふ可き資格を持たぬ、最後に小川先生の美醜論と題する趣味の講演を御願した、「テーブルスピーチ」に御堪能なる先生は大きな「テーブルスピーチ」である、聴衆をして長時間の花の香りの味も少し學生の席くれた思想で波立たせたその會場を程よく「コントロール」して眞に講演の喜びを聴衆に與えて下さつた。

趣味の市街人生を送れ、美醜の識別を狭き「スタンドポイント」よりせしめて廣く深き基本に求めよ、美しき市街生の喜びを求めよと先生はよくわかる様に話して下さつた。

拍手しばし鳴りをしめず松嶺眞砂の音と共に又二日間の成功を祝福して呉れる様であつた。

片山主筆の熱心なる努力によりて嫌がある閉會の辭を聞いた時私は是程喜ばしかつた事はなかつた、六時の報を聞いて會場を見送り、三熊館に歸つた。

會場の社旗が磯風にゆられて實際心よげであつた。此の二日の講演は全く淡路新聞社と同教育會并に商工會の大なる努力の結晶である、自然の美と人間の眞如の熱心の結晶が今の我等一行の喜びであると思ふさき私は感謝の念を捧げずには居られなかつた。

只我等の努力の結果は疑はしい、少しでも吾等の講演が淡路の實業に反響を與へ又青年諸君の辯論の刺激となつたならば此れこそ望外の光榮である。

此の夜華かに電飾せられた三熊館の樓上で盛大なる歡迎會が當地の商工會、教育會并に新聞に關係ある諸士に依つて催された、配膳の位置宜しく講師を正面に着席すると阿部社長の挨拶があつてそれから小川教授

さしたが漸く氣が付いたらしく、「おい君、之れ丈は書かぬ様に頼むぞ」。

洋服、浴衣にバスケットをさげた軽い裝束でブラストホームにブラリと列んだ所をアルバム用寫眞に撮る八時三の宮を出發した。

汽車は動き出したがあまり無駄事を喋べらぬ。沈黙の内に緊張した氣分が思はれる。今日の日程が廻はされる。卒業生諸君が福知山で一行の爲に奔走せられて居るさ云ふ快報が來る。

池田驛へ着いた。一寸活劇が起る。小川先生柏原までの切符を持つて居られるが池田は生憎途中下車驛でない。

「如何すれば好いんですか」改札に

「以後御乗にならなければなりません……」

「何？馬鹿!!」と一喝。暫くして

「諸君、實業が下車驛だ相ですからさくらへ廻ることになります」から……

▲池田師範學校

「神戸高商巡回講演場」を張紙のしてある門に入る。附屬幼稚園の可愛らしい小兒が繁つた木の蔭で小さな先生を取り巻いて黄い聲で歌つて居る「い、な、い」吾知らず叫んだ。

二時講堂で開會した。聴衆は殆ど小學校教員其他智識階級の人々で占めて居つた。二百名程あつたが皆熱心に吾々の論ずる處に耳を傾けた。演題は左の如し。

- 一、開會の辭 樽谷 勘三郎
- 一、これから 塚本 榮
- 一、世界動亂と帝國の經濟 磯上 善次郎
- 一、社會生活の理想

一、人口問題と國產獎勵 國吉省三
一、「自然に還れ」とは如何なる意味ぞ 小川部長
五時、終りて、町長、郡視學、其他有力者が主催で盛なる歓迎會があつた。豫定より早く終つた爲め、一行は寶塚へ寄つて新温泉で一汗を流した。

▲三田中學校
僕が三田へ着いたのは九時に近かつた。校舎は丘陵に建てられ月明では輪廓だけしか解らなかつたが中學として勿體ない位の建物である。財團法人で小寺氏の寄附に成つた相だ。未だ卒業生を出さぬ新しい學校である。

八時開會。中學生だとか青年會員だとかの若い人々が多數を占めて居た頗る盛會である。
随分暑い晩であつたが演説の終るまで、聴衆の一角から不絶、僕等に涼い風を送つて呉れたから暑さは凌げたが蚊の猛烈なものには参つちまつた。

- 一、開會の辭
- 一、偉人の時代は去れり 磯田 敏
- 一、新道徳の意義に就て 原田 卓
- 一、關西人の誇り得るもの 中川 松治郎
- 一、吾々は何を知らなきやならないか 鹽崎 觀三
- 一、人生即奮闘 小川 部長

吾々は學校の好意で其の教員俱樂部に泊ることゝなつた。寢臺の風雅な家である。未だ湯が立てゝあつたので僕は早速飛び込んだ。KもNも入つて居た。

「實際涼しかつた……」とNは切り出す。
「ツイ……云つたつて、あきやせん、あれはFだぜ」

Kは何も知つて居る様なことを云ふ。
「問題はシヤンであつた云ふ事を肯定し様とするにある、既にFであるか如何かは別問題でないか」と僕は呟いた。

第二日、(二十二日)

▲古市小學校
二時開會、此の村では各戸から數くとも一人宛出ると云ふ布令が廻つたので小學生だとか爺婆がゾロ／＼寄せかけたのだからたまらぬ、此方の思つて居る様な事は一も云へない、中川君が小學生の爲めに御伽話の様な話をして笑はせた。

- 一、大和民族の使命 塚本 榮
- 一、米價問題 國吉省三
- 一、國民經濟の將來 鹽崎 觀三
- 一、來るべき産業戰を想ふ 中川 松治郎
- 一、文明人と野蠻人 小川 部長

▲篠山
七時過ぎ會場大黒座へ乗込むと、聴衆は潮の如く押し寄せて来る、開會前に満場立維の餘地もないと云ふ盛況、此の町でも今夜の如く一千の聴衆が集つたのは初めてある相な。而かも聴衆が若い血の漲る人々である、肺腑を吐いて出する熱言熱句は一々聴衆の胸に共鳴する、聴衆は恍惚として言急調を帯ぶる毎に拍手喝采を以て迎へた。當日の演題左の如し。

- 一、開會の辭
- 一、國產獎勵を論ず 國吉省三
- 一、日本國民の憂鬱時代 樽谷勘三郎
- 一、經濟生活の根本思想 鹽崎 觀三

- 一、此からの産業 磯田 敏
- 一、米の話 國吉省三
- 一、亞細亞民族の將來 塚本 榮
- 一、新らしき世界生れんとす 原田 卓

▲福知山
卒業生諸君に迎へられて會場須明小學校へ行く。校長や郡視學と面會した。旅館舟橋樓へ行つて見ると中川先生が先着して居られる、先生は御多用の折柄、特に講演部の爲めに福知山以後の講演に参加せられることゝなつた、一同は先生を得て勇氣爲めに百倍す。

先生はまだ洋服姿で居られるので「先生浴衣を御召しになつては」「私は此れの方が氣楽です。宅に居つても此の通り一寸寄宿舎へ行くのに裸體で行けず、それと云つて上着を附けるは暑苦しい、則ち此の通りズボンとシャツ、自稱散髪屋と稱して居ります。」

八時會場に乘込む。知識階級農業者青年會員等あらゆる方面を網羅して聴衆約五百、堂に満つ。

- 一、打算主義の批判 磯上善次郎
- 一、生活難問題の意義 鹽崎 觀三
- 一、眞の戦は何か 樽谷勘三郎
- 一、地方開發と都市人口集中問題解決策 中川 松治郎

一、電信の利用に就て 中川 教授
月明に照らされて宿に歸る途中、行人の批評に曰く「皆喋るこゝは中々上手だが、俺等の商賈と關係のない事を云つて居る。此んな人々には金儲以外に人間として考

ふべき事が澤山あると云ふ事を商業、學生、の口から説いてやる必要があると思つた。して見ると講義的な説明的な講演の外に眞の學生の意氣を偲ばしめる様な熱烈な演説がある方が却つて喜ぶべき事であらうかと思つた。

卒業生諸君、岡兩君が一行の爲め色々苦を折られ尙は歡待して下された事を鳴謝す

第四日、(二十四日)

▲和田山
到着するとブラットホームに渡邊先生が吾々を待つて居られた、先生は御病氣が未だ全快なされないのに特に講演部の爲に態々御越し下さつたのである。一同感謝の辭がない。學友足立、日下兩君に迎へられ會場へ行く。

- 一、米に就て 國吉省三
- 一、商人即ち人間 磯上善次郎
- 一、一人坊ツヂじや世渡りや出來ぬ 磯田 敏

一、會計士の話 中川 松治郎
一、化學工業問題所感 渡邊 講師
講演後懇懇の用意があつた相だが出發時間切迫の爲め不得辭退して灼くが如き西日に照り付けられて約十町からの道をスター／＼走つた。
林視學本一の目下、足立兩君の御書翰に對して深謝す。

▲豊岡
新聞社が主催となつてピラや東西屋を廻して廣告し

一、バック、ツリ、ザ、ネノチユノア一 小川部長
篠山は一行中の樽谷君の郷里である、同君は池田講演後直に篠山に向はれ、又本一齋藤君が特に歸郷を早められ共に色々盡瘁せられた事を深く謝す。

▲和原

汽車が着くと町長、郡視學、中學校長、新聞記者其他有力者に迎へられて旅館霞月樓に入る。其の夜は郡視學中學校長大庄氏などが主催となりて吾々の爲め盛なる歓迎會を開かれた。大庄氏が一行の爲め色々骨を折つて下さつた事を深く感謝す。

會場は小學校の講堂である。開會當時は廣い講堂もギン／＼詰まつて、溢れて出たものは止むを得ず外の運動場から聴いて居る、前にヅラリと列んだ學生連はもうウツトリとして居る、俺等は益々緊張して來て、口角泡を飛ばせて熱辯を振ふ。聴衆六百學生、知識階級實業家が多かつた。

- 一、開會の辭
- 一、解決の曙光 磯上善次郎
- 一、第一義は徹せす 原田 卓
- 一、千歳一遇の意義 塚本 榮
- 一、此の謎を如何に解くべきか 磯田 敏
- 一、戦の終る秋即戦の始る秋 中川 松治郎
- 一、國產獎勵を論ず 國吉省三

第三日、(二十三日)

▲和田
和田村は一千戸からの大村で聴衆は主として農業者、青年會員、小學生などが多く約三百、盛であつた。

- 一、村より町へ、町より村へ 中川 松治郎

た爲め、聴衆は開會前からワッショ／＼と詰め掛ける、丸で政談演説會に臨む様である。場所は公會堂。若い人々や智識階級の人々が多かつた。辯士は入り代り所信を何の躊躇する所なく吐露する。聴衆も熱して來て野次り出すものがある。辯士は益々緊張して手を振り足を踏み鳴らして怒號すれば拍手急激の如し。僕は聴いて居て何だか身體がムズ／＼して來て演壇に飛び出したい様な氣持になつた。T君僕を省みて「君演りたかありませんか」

- 一、道徳革新論 原田 卓
- 一、生存の意義 塚本 榮
- 一、日本國民の經濟的自覺 樽谷勘三郎
- 一、企業的精神の象徵 鹽崎 觀三
- 一、電信の利用に就て 中川 教授
- 一、趣味 小川 部長

十二時満場破るゝが如き拍手に送られて宿に歸る。

「いゝ月だれ、船に乘らしやらないか」と誰れか云ひ出した。宿の面倒がらぬのも不關、ドヤ／＼と小さいボートに七八人も乗込む。二三本オールを入れて岸を離れると「ゴト」音がして船は止つて仕舞つた。バックをしても中々離れない。樓上では先生達が盛に野次る。小川先生の名前に曰く、

「舟人多くして舟中流に座礁す」と。
月光を浴びて酒を飲む。酔つては唄ふ。唄つては漕ぐ。興は盡きず「支武洞まで漕げ」と叫ぶ。一同は夜の更けるのも頓着せず、心ゆくばかり楽しんだ。

第五日、(二十五日)

▲城崎
滞在中の南先生が態々一行を尋ねて來られた。早速

「先生今日は何か御講演を願つて見ると、此の暑いのに講演など、キ、コ、ン」。先生の洒落も中々振つたり。

○

小學校で開會した、場所が場所であるから聴衆の少いのは止むを得ない、然かし野次り半分出て来る輕薄な聴衆千よりも眞面目な一人の聴衆の方が貴い。渡邊先生は此の僅かな然かも眞摯な聴衆に酔々二時間に亘つて説かれた。たゞ敬服の外はない。

一、開會の辭 塚本 榮

一、戦後の經濟的活動 中川 松治郎

一、國產獎勵の根本的政策 渡邊 講師

六時終つて一の湯に入る。皆、湯壺に足なげ出して時々柄杓で身體に湯を掛けて樂げに思出を語つて居る。あの氣分は苦熱と戦つて来た五日間奮闘の後初めて味ひ得たものである。本三の西村君が歸郷の途次特に城崎に立寄られ聲援を與へられた事を謝す。

○

七時から慰勞會が始まつた。

中川君が「吾々が續けて来た奮闘的生活、其の道程の樂も甚だ大でありました、然し今、かうして成功の裡に巡回講演を終るを得ました完成の喜は更に／＼大なるものがあります、此れ全く諸先生の懇切なる御指導にあるものと深く感謝の意を表する次第であります」と述べ中川、小川先生各簡單なる謝辭ありて宴に移る。中川先生は一同の爲め紀念の句を分配せられ、且つ盛會を報ずる爲め校長に皆の寄せ書を託した繪はがきを送る事を動議せらる。蓋は重なる、皆大分好い機嫌になつた頃「先生何か一つ願ひます」と扇子を前につき出して包圍攻撃に出掛て。僕等の間にも扇子の交換が始まる。「第一義」だとか「骨定」だとか堅苦しい事を書くものもある、三田の憶出もあれば、俺は酔つて何も書けぬ

と書くものもある。

都合によつて先生達は九時に豊岡の方へ出發せられることゝなつた。一同は別を惜んだ。

それから、思ひ／＼に町をぶらついて歸つたが月がよいので直ぐ寝に就けぬ。横側で蚊を追ひつゝ、語る。いくら語つても話は盡きぬ。

○

中川、國吉、鶴田の三君が是非一番の列車で歸らねばならぬと云ひ出す。此のまゝ別れるのは何んだか悲しいではありませんか。三原田君は感傷的に別を惜む。一時を過ぐる眞夜中である。心ばかりの盃を交して別れた。(締切日の正午機次郎記)

終に小川部長、中川、渡邊兩先生の厚き御指導を茲に深く感謝します。尚ほ委員中川國吉の兩君が、巡回講演完成の爲め最善を盡された努力を多とする次第である。

巡回講演行

未聴私記

●濁らない純な空氣の中で、靜かに考へながら共鳴してくる人々の前で、商業學生として自分の考へて居る所を、露らには有の儘に語つて見たい、自分は此んな子供臭い空想と憧憬とを盡きながら、皆んなの驕尾にシヤガミ付きながら五日間の路を歩んで行つた。空想の丘に邁む理想の憧憬と、經驗の前に平伏した現實の曝露と。五日の後に自分達の頭に此の二つの撞着と階和とがゆき交ふた。曰く地方經濟の改善、曰く都會生活と地方生活との接觸、曰く新實業思想の宣傳、曰く何、曰く何と。こうした無暗に大きな趣旨の爲めに自分達は動いて行つたやうであつた。勿論その何れ

に就ても多少なりとも足跡と印象とは残したであらう。けれども、赤裸々に現實を考へて見れば、之等の大問題に觸れて行く前に一の事柄を植へつけて行つたと思ふ。一つの事柄とは何であるか、曰く、現代の實業學生は「何を考へ、何をやるか」之れである。

自分達の論ずる所は聴衆の人々の期待して居つた所と遠く懸れ離れてゐたらう、説く所或は難澁に失したのもあつたらう。唯、聰明にして批判力ある人々の多くは、知らんせし所は或は知り得ずして失望に終つた點もあつたらうが、又識らんと欲しなかつた問題に觸れ得るゝものがあつた事と信する、現代の自分達は經濟生活を如何に判斷しつゝあるかの問題即之れである。

生活の批判——これは現代の思潮である。多くの教育家たる人々や地方の若い人達は切實に此の問題を考察せられ、又考察すべきものなることを感ぜられたであらう。自分達も、自分を告白して行くことが出来たとして喜悅を覺ゆるものである。

●武田尾の山の後から、夏の夕日が流れてくる下を、自分達の車は走つて行く。鐵橋と鐵道とを、恰かも鐵絲の上下に縫ひて行く鐵道の緯線のやうに、鐵道の線路が走つてゐる。越えつ、沿ひつて行く下の溪流は可なり急である。藍い清流の所々に白い泡が躍つてゐる。山の翠、水の藍、自分は「緑の翠を歩いて」を考へながら、綠の享樂と批判とに耽つた。

岩の所々に男が手綱を曳いてゐる。感傷の愚案家Tさんは、

「形容できない程美しいやありませんか」

と謂ひながら鋭い眼を射込むやうにして、流を凝視めて居た。

あい、自然よ、自然よ——詩人も泣け、泣け。

山は動く、町として篠山は動かない。

●小川部長の雄辯を論ぜんとする者は篠山に於ける先生を知らなければならぬ。無慮一千を數ふる聴衆の前に、容き易い劇場の空氣を終始緊張せしめられた、あの熱き力との溢れた而も修辭に富むた辯。自分達は一種の力に囚はれつ解放されつする様な氣分で先生の辯に恍惚として居つた。

先生壇に立つ、柔しきと犯すべからざる力とが先生の影であつた。篠山に歸郷したN君は「あの力ある若い青年のやうな辯。先生の此んな雄辯は聞いたことがない。」と言つてゐた。

池田、三田、古市、篠山——二日の間の先生の活動。自分達は見るから嬉しきものがあつた。車中に鉛筆を走らせて草稿を作り、旅客中にて思想を新しく纏めて新しき用意をする。奮闘即生活とは先生の主義なりとは謂へ、炎暑の間、尙斯くの如き勞苦と苦とを厭はせられざる部長を得た講演部には祝福すべき多くが無ければならぬ。

●三田に丘陵の月を眺め、篠山城下に月光を浴び、福知山に街の月を見、更に解散の夜城崎の温泉寺の月を賞したけれども、自分達に最も華かであつたのは豊岡の月であつた。中川先生を福知山で迎へ、渡邊先生を和山より迎へ、茲に三先生を得て、盛大な講演會を公會堂で開催した時は、自分達五日の生活の頂點であつた。

歡喜の頂點に立つた自分達は、宿の後を緩かに流るゝ圓山川に棹した。可なりの廣さを有し、透く様な清い川面に、船を流しては上り、流しては上る。持つ棹で水を撻げば、月影碎けて銀鱗の如く飛ぶ。飛沫を浴びて、麥酒の乾杯を擧げる。杯の音憂々として川風涼し。靜處先生の句に曰ふ。

樽聲起る水は煙りて夏の月

歡樂の歌を歌ひ、喜悅の語を語り、皓々たる月光が家の屋根より山に隠るゝまで、舟を辭することは無かつた。

●朝、豊岡の町を去り、玄武洞と青龍洞との奇岩を探り、茶の音清き圓山川より二見浦を眺め、騒しい温泉の町に來た。

橋本屋主人の好意により、自分達は思ひ多い解散の宴を、其の樓上で開くことが出来た。湯槽の氣分で全く身體の肉の緩くなつた自分達は直ぐに酔ふて仕舞つた。先生達が豊岡に歸られた後、暫時自分達は稍々亂れた杯を交換した。

●五日間の生活、前後十回の講演、自分達は、踏んで來た跡を顧みて、多大の成果を収めて歸來する自信と誇りを持つてゐる。唯、自分達自身のみで就て考へて見ると、全體から見て、其の内容に於て二の色彩調、二の潮流があるやうに見受けられた、富の高調と企業心の高調と。こうした二の色彩が可なり判然と區別されてゐた。社會に運動の暗示を與へ、進化の暗示を與へるものは生活と思潮と、兩者でなければならぬ。假令如何に生活を完全に高調し論じて、他方に思潮の力が苛まれて居たならば、其の生活には缺陷が無ければならぬ。多くの經濟生活の論者に此の缺點は無いであらうか。此の意味に於て、或は歐洲戰亂、或は國產獎勵、或は生活問題を論じて直接間接に日本經濟生活の貧弱の自覺を促すと共に、企業心を論じ、打算主義を語り、新實業道德を高調して、企業心の自覺を促すものあるは、面白き對照であると思ふ。自分の考へては、此の生活と思想との兩者の高調を、永く續けて往きたいと思ふ。(大阪にて、十日午後記)

「先生今日は何か御講演を願つて見ると、此の暑いのに講演など、キ、コ、ン」。先生の洒落も中々振つたり。

○

小學校で開會した、場所が場所であるから聴衆の少いのは止むを得ない、然かし野次り半分出て来る輕薄な聴衆千よりも眞面目な一人の聴衆の方が貴い。渡邊先生は此の僅かな然かも眞摯な聴衆に酔々二時間に亘つて説かれた。たゞ敬服の外はない。

一、開會の辭 塚本 榮

一、戦後の經濟的活動 中川 松治郎

一、國產獎勵の根本的政策 渡邊 講師

六時終つて一の湯に入る。皆、湯壺に足なげ出して時々柄杓で身體に湯を掛けて樂げに思出を語つて居る。あの氣分は苦熱と戦つて来た五日間奮闘の後初めて味ひ得たものである。本三の西村君が歸郷の途次特に城崎に立寄られ聲援を與へられた事を謝す。

○

七時から慰勞會が始まつた。

中川君が「吾々が續けて来た奮闘的生活、其の道程の樂も甚だ大でありました、然し今、かうして成功の裡に巡回講演を終るを得ました完成の喜は更に／＼大なるものがあります、此れ全く諸先生の懇切なる御指導にあるものと深く感謝の意を表する次第であります」と述べ中川、小川先生各簡單なる謝辭ありて宴に移る。中川先生は一同の爲め紀念の句を分配せられ、且つ盛會を報ずる爲め校長に皆の寄せ書を託した繪はがきを送る事を動議せらる。蓋は重なる、皆大分好い機嫌になつた頃「先生何か一つ願ひます」と扇子を前につき出して包圍攻撃に出掛て。僕等の間にも扇子の交換が始まる。「第一義」だとか「骨定」だとか堅苦しい事を書くものもある、三田の憶出もあれば、俺は酔つて何も書けぬ

劍道部

小會記事

(六月二十六日)

三尺八寸の竹刀持つ手に風薫る、梅雨晴れの午後、我が部が夏稽古を始めてから一週間目の月例小會である。油の乗り出した若殿原、蕨る太刀風に雲を呼び氣合籠れる懸聲に霧を吹く、凄しなういふばかりない有様、總計五十人何れも斯道の猛者勇士が紅白二つに分れて雌雄を決した戦の跡は次の様である。

(紅軍)									
堀場	土屋	伊藤	西山	福田	中山	白澤	東(光)	小原	遠藤
○田淵	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○米田	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○八家	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○杉町	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○關	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○森村	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○川野	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○三間	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○荒牧	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○横山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○高城	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○石田	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○遠藤	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○中村	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○今村	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○成富	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○明比	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山
○溝口	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山	○山

吉井	稻田
○吉井	○田
○東野	○小
○山本	○小
○大久保	○小

夏稽古納會の記

近年にない盛況を以て三週間の雄々しい稽古を終つた我部の勇士は七月十日道場で行はれた納會に思ひきりその牙えに牙えた腕を發揮して面白い仕合を見せた左は當日の記録である。

三本勝負

(1) ○(堀場)	(2) ×(中山)
(3) ○(清水)	(4) ○(溝口)
(5) ×(成村)	(6) ×(今富)
(7) ○(森村)	(8) ○(杉町)
(9) ○(高木)	(10) ×(山代)
(11) ×(高木)	(12) ○(船三)
(13) ○(三好)	(14) ×(小石)
(15) ○(和田)	(16) ○(塚田)
(17) ○(小田)	(18) ○(小田)
(番外) ○(卒業生)	(番外) ○(卒業生)

一本抜輪轉仕合

(順序は抽籤による)

○森村	○山	○三	○杉	○福	○關	○高	○和	○船	○三	○今	○富	○石	○溝	○横	○明	○成	○小	○大	○石	○濱	○小	○保	○村	○好	○田	○野	○東	○稻
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

對御影師範オリンピック仕合

我國運動界「最初の試みとして」今回の催は夏枯れの運動界の沈滞を破り各方面に多大の反響を喚起した。

暑い時だ、くどくしい批評めいたことに抜きはして綺麗サツパリレコードだけを掲げて置く。○第九回卒業生諸君、夏稽古を終るに當り卒業記念品として浴場設備を残して下さった諸君の友情と好意を深く感謝致します。淋漓たる満身の汗を洗ひ去つた時の氣分はまた格別です。諸君が永へに色褪らじと植えられた記念閣の大松は何うしたこゝか枯れ果て、みじめな残骸を止めて居ますが、あの湯槽は清い諸君の友情を湛めて、いつも雄々しい運動家の疲勞を癒して呉れて居ます。

所謂オリンピックゲームは運動界に新機運を齎し運動界は此處に一轉換の時期に際して來た。それは最早事實の問題である。私達には機運を生み出し、將た機運に駕し、やがては澎湃と襲ひ來る波濤の第一頂點に立つて「指導者」たる使命がある。

その第一閃光は七月十日に實現された

「その日」は果して無意味には終らなかつた。企劃者の努力と各方面の援助とにより第一閃光は燦と輝き、その光には力があつた。企劃者の一人として筆者の歡びは此の上もない簡単に當日の経過を示して筒臺から先づ動いた新機運の幸先よかりし日を祝福いたしたいと思ふ。

期日 七月十日午後二時半より

場所 御影師範校庭

競技種目 十一種

採點方法 一種目を三點(一等二點、二等一點)とし三十九點を以て満點とし計算

審判員として本校側より杉江、泉、谷本、米田、鶴田の諸君出席。

此の雨天晴期なりしが仕合終了と同時に白雨沛然と來りし。

第一回 百米徒競走

本校側より本三岡本、田中、豫二富水の三君御影側より二名出場。岡本、田中二君の「百米突」は最早説明するの要もない、簡単にスタートの出から他を後に残して岡本一着田中二着の豫想通りの勝となつた。(得點本校三、御影一)

レコード 十三秒

第二回 八百米徒競走

豫二柴山君出場間際になり脚部疼痛甚しく爲に棄權し、結果は飛入大阪高工安井君の一着御影山本君二着となる。

レコード 二分三十二秒半(本校御影一)

第三回 鐵砲抛

燒きつくような午後の日をうけながら池川、堀場、藤堂、中村の諸君の巨腕が隆々力指で緊張する姿を拜見した。結果は中村君が群を抜いて一等となり、二等は御影の大久保君。(本校二御影一)

レコード 九米四二 中村

第四回 鐵槌抛

御影の御影の庭球の榎本君が、さんでもない方向に十六封度の鐵槌を飛ばしそれが審判の泉君に當りかけた際、い餘興もあつたが成績は

一等 武中君 (五十五尺七)

二等 藤堂君 (四十四尺八)

等外 榎本君 (四十一尺三)

大久保君 (四十尺七)

第五回 二百米徒競走

本校側より岡本、田中の二君。岡本君の一着は確定の事實として田中君の成績如何は興味深いものだった。果然、岡本君は先頭を切つた、第一コーナー第二コーナーは混戦の狀態ながら、田中君は第二位を占めて半ば先頭の岡本君の位置を擁護する巧みな策戦で経過した。第二コーナーをすぐるや決勝點までは坦々たる一直線。岡本君は依然先頭に。田中君は第二位に。御影の田村君最後のヘビーにて田中君を抜かんさ疾走したれど遂に及ばず又亦我部の勝利となつた。(三對一)

レコード 二十五秒五分の一

第六回 一哩徒競走

柴山君出場不能のため池川、藤堂二君出場したれど一着二着は御影の西山、鈴木二君に占めらる。(○對三)レコード 五分五十七秒

くんば自分すらも不思議とする位の當が出るもので無い。高潮に棹し油に乗る愉快は戦手が獨り享有し得る特權だ。而して此の特權は熱氣から生ずるのだ。

谷本 中村
竹内 原瀬

竹内も亦是氣と熱との抜けた人であつた。竹内としては奇蹟的に拙であつた。谷本は又徒に球に威力を加へん事をのみ惟熊り打方は常規を逸し球は續かず斯くして二人は其の有餘の技術を揮はずして毀滅的に敗れた。思ふに谷本は昨秋の三高戦以來其の球が前衛に捕り易いとの世評をいたく氣にしたもの、如く、自己の粘強い特性をも忘れて唯徒に威力を増さんと許り焦つたのだらう。竹内亦此の世評に動かされて谷本に對する從來の信頼を失ひ、内心では東上戦には勝つ自信が無かつたかの如くに思はれる。是谷本の焦りし所以。竹内の熱無かりし所以。思ふに自己の缺點を自覺してそれを氣にする位弱い事は無い。人に萬能の才無く物に百面の適無し。長所即ち短所也。個性は變へ難し、翼あるものは翼を以て翳あるものは翳を以て其の長所を發揮するに如かず。短所を氣にするの餘り長所までも忘れて徒に他の長を模せんとするも畢竟するに鳥の輪真似のみ。長所を精練し彫琢するの利の大なるは猶ほ短所を改造し練磨するの難の大なるが如し。吾は個性の發揮を高唱して已まざるものだ。練習とは畢竟するに精練の道のみ。彫琢の方法のみ。改造に非ず、創造に非ず。

吉川 河原
今城 目賀田

問題ならぬ取組。豫期の如く問題となるゲームを見せずして吉川組の一蹴に河原組も立たず。

吉川 牧原
今城 伊達

重い深い吉川の強球は伊達を無視したかの様に思ひ切つて中を衝いて居る。惜しむべし今城の活動無く牽制無く吉川の此の絶好球を無意味にして居る。吉川は球の真いだけそれだけミスも早くする、斯くしてレコード面では吉川の自滅で敗れたといふ事に示されて居る。望むらくは吉川の試合度胸を半分許り今城に分けてやり度いものだ。今城の技術を以てして絶好のチャンスは逸し去つたのは返す返すも惜しい。

大島 牧原
美田 伊達

我中堅は優退して居る。敵副將は優退して居る。今茲に大將同士の顔合せとなつて兩軍の形勢正に互格。大勢の七分は此の一戦で決せられる。美田を抜いて勝つた昨春の池上を倣うてか牧原は頗る美田のバックをアレシクしやうとしたが多くのミスに止つた。第一戦は斯かる自滅で我ゲームを得た。第二戦伊達の活動によりてゲーム一対一となつた。第三戦牧原又第一戦の愚を繰返して我容易に勝ち第四戦美田の活動によりてカウント三對に今一球で敵の敗とならんとするチャンスとなつた。牧原何ぞ思ひけん突然常と變つたサーブを入つて美田のサーブに似て居つた。進良くもそのチャンスを通した我に次で来るものは夫れ危機か。大島の球此の時より縮んだ様であつた。大島の縮む所は即伊達の活躍する所サウス以後の戦は伊達獨り光つて見えぬ。ゲーム斯くして二對二に達し第五戦に入る。我はサーブとなつて六分の利あり。後敏なる美田先づ動いて打込をせしが狙が急所過ぎて惜しい惜しいアウトとなつた。次で伊達大に活躍二點を収む。最後に大島伊達を抜いたが牧原敏捷に廻つて拾つた。併し金玉を返したに過ぎず。慧眼の美田何條以て逃すべき、此

處見よと許りに隙を狙つて打込みしが天運我に與せずそれさへ惜しいアウトとなつた。美田も伊達も共に天下の雄、而も此の兩高商の運命を決すべき大將此の第五戦さいふ際さいふ場合に兩雄各々手に掛くる所同數にして一は悉く得點し他は凡てを失戦す。勝敗の上より見ては何等の大相違をや。勝敗の興趣茲に存し。勝負を争ふ馬鹿らしきも又茲に存す。是を以て實力を争はんとために東上したる我等は悲觀せず唯勝たんとために東上したる我等は今に及んで猶當時の恨骨髄に徹して居るのである。

飯田 飯塚
武中 筒井

大將戦既に決して優退組の對戦となつた。けれども飯田組と飯塚組とは名は同じ優るなれど價値が段違だ。一溜もなく飯塚組の敗れたる是非も無き次第。

飯田 中村
武中 原瀬

天下の怪傑武中の武者振こそ此の孤軍奮闘の場合に示された。緊張し切つた武中の全身は毛細管の端々までもラケットの神が宿つて居る様だつた。神秘的な力の具象が武中であつた。高潮に乗つて居る緊張し切つて居る人間の印象として僕は生涯あの時の武中を忘れぬ。之に對する中村も亦是怪傑の偉なるもの而も當つて油の乗つて居る事武中と遜らぬ。一上一下ゲーム二對二となつたのは自然の數だらう。第五戦武中先づ得意の打込をした。狙は敵のフォアの隅、逆を取る最上の道、されどもそれがアウト。評するものあり是蓋敗因也と、嘗つて山樹も是で敗因を作つた事がある。第五戦さいふが如き一球が重大な影響を及ぼす時には打込も眞中を狙ふが得策だと實感した。第二の打込には武中立派に成功してカウント一對一、第三球武中ボールしてアウト。第四球武中の打込火が出るかと許す

へるかも知れないが随分廣汎な多欲な意味を以てゐる。

近頃流行するかの何々アルプスの踏破其の者を唯一の目的とする所謂アルピニストの群と云ふのみではない。半日の清遊を深山に求めたいと云ふ氣輕な意味のPeculiarも居る。詩や歌やこんな方面の眞面目な山岳の研究者も居る。要するに自然を愛し土の匂ひに何等かの趣味を有する者の山岳會である。狭い意味に因はれて無暗に山岳を山岳として解したくないと云ふのが我々發起者の希望である。

神戸 山岳會々創摘要

- 一、本會ハ神戸高商山岳會ト稱ス
 - 二、本會ハ山野ヲ跋渉シ登山趣味ヲ涵養シ心身ノ練磨ヲ計ルヲ目的トス
 - 三、本校學生ハ本會々員タル資格ヲ有スルモノトス
 - 四、本會ニ幹事若干名ヲ置ク
 - 五、會費ハ當分ノ内之レヲ徵集セズ
- 但シ遠足當日ノ入費ハ參加者之レヲ分擔ス
- 大正四年七月設立
- 以上

(三)

"Surely no one has the opportunity should, omit to travel, The world belongs to him who has seen it."

旅行の機會を有する者は須らく旅行せざるべからず。世界は之を觀察したる人の有ればなり

Tabbook

に猛球を飛ばしたが、原瀬のラケットに如何なる天驚の魅入りしかと思ひ設けぬアラマタとなつてそれが武中の動いた跡へ絶好のボールとなつて入つた。見て居た僕すら口惜しくて物が言へない。況んや武中をや。折れよと許りにラケットを地に擲け付けた武中の風情恰も是爛漫の櫻花激風に思切よく散る姿。悲愴美の最も男性的なる所、天下の怪傑敗れても終を全うしたと云はん。第五球飯田の球原瀬にボールせられて萬事茲に休した。



雜

纂

神戸 山岳會設立

野 客

(一)

土に出で、土に歸する吾人は土に接する機會の減じて行く程不幸な事はない。吾人は土に依てこそ不斷の活動をも教へられ無極の平和をも與へられた。土を度外視した近世の文明が矛盾に矛盾を重ね皮相の榮華を残したのみで盡きせぬ悲哀を生じた事も、強ち、理由のない事ではない。「自然に歸らむ野に山」と云つた様

な思想が當代に普及した事も全く意味のない事ではない。蒼穹の藝術が去つて森林の哲學に移つた様に、人工の文明が天然の造化に及ばない様に私は茲にも土の威力の偉大を思はない理には行かない。土の匂ひは鼻に着くけれ共伽羅の香の様に飽きは來ない。羅馬の大殿堂の華麗も山岳の崇美には及ばない。藝術も經濟も宗教も理想も將又健康も凡そあらゆる徹底の文字は自然の情緒の内に自己を見出した時に始めて解釋せらるゝものではないか。尊さの權化たる巨人の肉瘤と相對する時に始めて偉大なる造化の中心生命に觸れ存在の喜悦を味ふ事が出来るのではあるまいか。土なる哉。土なる哉。私は土の匂ひを心行く迄に賛美してやりたいと共に「神戸高商山岳會成る」の一句を高く、叫びたい。

(二)

世に自然を愛する人は多い。野山を旅する人は澤山ある。併してそれ等の人はきつと無暗に歩きたがるから然らずば山野のユーモアを靜かに批評し考へたいと云ふのみが孰れか片頭の目的を以てゐる。こんな意味から云へば我神戸高商山岳會の設立はやゝ不明瞭な不徹底な感じを與

私はこんな理由に於てのみ旅行を観察し登山趣味を解釋する者ではない。然し此の語が半面の眞理を含んでゐることも亦、敢て否む事はできない。

ラテンの諺に "In aëre salus—Health in the air" と云ふのがある。土に依て健康を得んとする者は本會に来るがよい。日本アルプスの白雪の輝と偲松の匂とに絶え難い憧憬を有するものは来り投せよ。春紫の繡翠を望んで止み難い者は来れ。溪山の清秀に曠神怡神の樂を得んとする者も来れ。赤日の下に汗涔々峯嶺を攀ぢて快哉を叫ぼうとする者も来れ。山岳の批評家も詩人も敢て我々の精神に叛く事にはならない。

我々は只本會の設立に依て本校内に登山の趣味と眞面目な自然の同情者とを得て新しい生命に生くる團體を作り得たならば發起の目的も達せられた次第である。

(賛助)
大山 先生 岡田 先生
(發起者)
大河原一二郎 古川 雄郎
神成 彌七 岡本治之助
原田 發一 平井泰太郎

東亞同志會創設

我日本帝國の隆運益旺なるに従つて、

活動舞臺として、此小さい地域に満足するを得ず、東に西に南に北に凡ゆる方面に膨張して行かねばならぬ事となつた。

北馬南船何れが嫌ふべきなしと雖も、吾人は吾等の立てる東亞殊に東亞大陸に於ける劃策經營の緊要なるを切に感ずるものである。實際燈臺下暗しと云ふでも無いが了つた様で、了つて居らぬのが東亞である、しかも之れ我國の寸時も忽にするを許さざる地である、東亞研究の要は茲に於て起る、且又東亞は未知の資源を豊に藏してゐて、世界經濟場裡逐鹿の中心は漸く此地に遷りつゝあるから、東亞に於ける劃策は亦茲に必要である——實際燈臺事を考へる者は我校内にも尠くないであらう。

此等の人々が互に集つて互に面識を作ると云ふ事は甚だ切要な事と思ふ。同志相集つて其の抱負を語り、見聞を分つ事それ自體が有意義なるのみならず、後日同地方に相呼應して活動し若しくは事を共にするに於ては、男兒の快より大なるべき明である。然るに今の所、同じ學校に同じ志を抱き乍ら何等之を接近せしむる機關の備はらざるため、遂に相識らずして終る有様である。吾人は之を甚だ

遺憾と思ひ遂に東亞同志會なるものを創設する事とした。此の會を通じて今迄の不備を補ひ得るならば甚だ満足とする所である。

扱去る六月二十四日放課後學生會館に發會式を擧げた所集るもの二十五名、そこで衆議により本會の宣言書及會則を起草し、且役員選舉の後快談に時を移して終つた。尙本會の趣旨に大に賛し乍ら他の事情のため、當日出席し得ざりし諸君及後日入會を希望せる諸君を併せ實に五十有餘名に達し得たるは當に吾人の満足する所のみならず、以て校内に或る一種の氣風の溢れるを窺ひ得る事甚悦に堪へざる次第である。

宣言書

今回の歐洲戰亂は正に戰後に於ける世界列強の地位と新活動とに著しき變化を來すべし、而して之と共に東亞に於ける我國の前途愈多忙なるべきや必せり、政府先に支那政府に對し交渉する所あり吾人が彼の地に向て開拓すべき地歩は茲に茲に確保せられたり、而かも今後之れが實果を収め得る否とは一に懸て我等國民各個の責に繫る、今日自哲人の横暴を鳴らし同文同種の支那と唇齒、補車の關係を持するの要は云はずもかな、更に我國が東亞大陸の開拓者として東亞の統率者として其の實を擧ぐくに力むるの一層緊要なるを覺ゆ。

抑、大に其の盛を致し宇内に覇を稱せんとする皇國大和民族が此の一小島國に其地を占めたるは、幸否未だ遽に斷ずべからずと雖も、今後より我國家生存の永

久安泰を保證する所のものは曠大なる東亞大陸を措て他に之を求む可からず、蓋東亞大陸は無言の裡に解決を迫れる我人口問題の調節者にして又吾が商工立國策の對照なればなり、實に大陸は人類生存の根據にして増殖止む所なき大なる人口の收容地なり且つ近世工業の原料供給地にして又其の生産品の大消費地なり。

新時代に於ける大問題は正に新太平洋及新亞細亞の問題にあり海上の勢力亦甚だ須要の事に屬す、雖然海運に畢竟陸上との連絡を計るもの海上の繁榮は陸の繁榮に俟たざる可からず、果して然らば新大問題の焦點はそれ東亞大陸か、彼の支那に於ける領土保全機會均等門戸開放等の世に喧傳せらるゝもの之が一反映にして今や世界經濟場裡逐鹿の中心は漸く此の地に遷りつゝあるを示すものに非して何ぞや噫至緊なる哉東亞大陸の經濟的經營!!

本會は深く此所に惟ふ所あり大陸に關する見聞を擴め其の富源開發經營以て彼此經濟關係をして益々緊密ならしめ且つ日支提携の要に鑑み相互の了解相依に努め以て皇國の雄大なる目的に添はんことを期す。

會則

- 第一條 本會ハ東亞同志會ト稱ス
- 第二條 本會ハ東亞大陸ニ對スル見聞ヲ擴メ其富源開發并ニ帝國ノ經濟上ノ勢力伸張ヲ計ル所以ノ道ヲ研究シ併セテ會員相互ノ親睦ヲ圖ルヲ以テ其目的トス
- 第三條 本會々員ハ通常會員及特別會員ノ二種トス
本校學生ヲ以テ通常會員トナシ本校出身者ヲ以テ特別會員トス
- 第四條 賛助員ハ本會々員以外ノモノニシテ本會ノ趣旨ヲ賛シ援助ノ力ヲ致スモノトス
- 第五條 集會ハ之ヲ定期集會及臨時集會ノ二種トス但定期集會ハ毎月一回之ヲ開クモノトス

第六條 會費ハ或一期ノ實費ヲ全會員ヨリ徴收ス
第七條 本會ノ事務ハ委員之ヲ處理ス
委員ハ各クラスノ會員中ヨリ之ヲ互選ス

第一回定期集會

七月十五日午後二時半より第一回定期集會を開く、本三西川清君の日英同盟に就き三十分ほど亘りて君の眞摯なる研究の一端を分ち吐露されし事を厚く謝す。又本會に對し大なる同情を有せらるゝ石橋教授は當時學生の海外旅行の事にて一方ならぬ御多忙中、又當日御氣分も勝れざりし所を押してお出され、本會に對する御賛意を表され大に吾人を勵まれ、且つ支那に對する先生獨特の觀察を述べられ、吾々に研究方針を與へられし事は大に感謝する所なり。かくて教授別室に茶を吸みつゝ問答談笑して五時散會す。

卒業生諸兄へ

猶ほ茲に卒業生諸兄へ御願致し度き事があります、それは本會の趣旨に御賛同の方は本會の爲に何分の御賛助を願ひたい事であり、私等は何も知りませんでしたが後に石橋教授から承りますれば、第四回卒業の諸兄中、東亞研究會を申す會を御創めになつて居た事の事で、私等は期せずして其の後を繼いで復興せしめた譯であります。

卒業生諸兄、大陸方面殊に支那問題等に興味を有して居らるゝ諸兄は何卒御所見の一端を我等に分ち、好個の刺戟を與へて我等をして益々長く本會を繼續せしむる事に御援助下さらん事を切に御願ひ致す次第であります。御賛同の御方は母校内東亞同志會宛に其の意を御洩し下さい。

本會に御賛成下され特別會員となつて下された方には左の諸兄があります。

和 田 藤 田 三 浦 鈴木

因に本會委員は
本三 鮎川 善哉 可部秀次郎
本二 渡部 義雄 堀場 定藏
本一 小石俊三郎 佐藤 忠一

南米同志會復興

祝賀會

秋 霜 生

六月二十三日午後本校教授別室にて復興祝賀茶話會を開く。前に控所揭示印刷物配付等種々の方法に力を盡せし甲斐ありてか其れ其時代の要求に適應したる爲めか兎も角學校内は勿論卒業生諸兄にも多數の賛成者を出したるは大に喜ばしい事柄である。當日石橋岡田兩先生の御多忙中にも不拘態々御出席下された事は會員一同の光榮とし且つ感謝に堪へぬ次第である。

先づ大川君は開會の辭として南米同志會復興の由來を語り松波君は南米地理の概略を説明す。次で石橋先生は次の如き意味の御話をせらる。

本校に於ける西班牙語は其の性質他の外國語と異り一興一廢榮枯盛衰の有様甚しく毎年校長や教授の間に其の存置の可否につき議論起るも私は何時も存置賛成論唱へるもので其の理由は元來此の西語は特殊の研究に屬するもので南米に雄飛發展せんとする者

小酒井光次	生命神祕論	四	二〇八
丘 淺次郎	人類進化の研究	四	二〇七
河合 三郎	腦力經濟の秘訣	五	六五
第十門 文學及語學			
藤岡作太郎	鎌倉室町時代文學史	二	一六一
芳賀 矢一	筆のまに／＼	二	一六二
吹田 順助	ケオルク ブランドス	四	一七六
田部 重治	文藝復興	四	一七七
藤井宗太郎	英 商業文構成研究	四	一七八
杉本 伊作	佛蘭西語獨修 (L'Ecole Soi-même de Langue Francaise)	四	一七五
ハリール	實用日獨會話	四	一七九
山口 健太	英語會話作文講義	四	一七四
同	宋拓祐河南雁塔聖教序	五	六四
畧 利彦	文章速達法	六	一二五
森本 謙	書翰文自由自在	六	一二六
第十一門 哲學及教育			
警 醒 社	現代思潮叢書	一	一四九
桑木 嚴翼	第三編 生の更改と新藝術		
木村 泰賢	內藤 第三編 現代の思想家		
三宅雄二郎	小松 第五編 自我の研究		
警 醒 社	野村 第六編 自我の研究		
井上哲次郎	印度六派哲學		
	想痕		
	近代思想 第八編 宗教の哲學的基礎		
	日本朱子學派之哲學		

部
番
號

八 七 七 六 五 四 四 四 四 四
一 七 四 一 八 一 七 一 七 一 七 六 二

三三七
三二六
三三八
一八七
一
二二五 九六
二二五 〇四
三五
一六六
三四
四〇

CLASS III. LAW.	
Owen, D. Declaration of War.	6 64

Altham, E. A. *The Principles of War.* Vol. I. with

Angell, N.	Prussianism and its Destruction...	336
Blakeslee, G. H.	Recent Developments of China	328
Bulow, B. von.	Imperial Germany	332
Groly, H.	Progressive Democracy	34
	France and the European War (French Yellow Book...	33
Frank, T.	Roman Imperialism	37
Ruedorffer, J. J.	Grundzüge der Weltpolitik in der Gegenwart...	34
Seton-Watson, R. W. & Wilson, J. D.	The War and Democracy...	79
Sneip, S. S.	Handbook of the European War	36
Treitschke H. v.	Germany, France, Russia & Islam.	29

Emin, A. The Development of Modern Turkey as

measured by its Press. (Columbia University Studies in Political Science, Vol. LIX. No. 1)	1	60
Antonelli, E. Principles D'Economie Pure	2	359
Brisco, N. A. Economics of Efficiency	2	357
Chapman, S. J. Work and Wages. Part III.	2	356
Gide, C. Cours D'Economie Politique	2	360
Haller, F. Why the Capitalist? A refutation of the doctrines prevailing in conventional political economy	2	361
Perrean, A. Cours D'Economie Politique	2	358
Aftalion, B. Les Crises Periodiques de Surproduction	3	381
Tome, I. II.	3	382
Compère-Morel, a Concentration Capitaliste en France.	3	321
Gaebel, G. La Centralisation Economique en Suisse.	3	321
I. II.	3	321
Haney, L. H. Business Organization & Combination.	3	140
Revised and enlarged ed.	3	140
Statistical Abstract for the Principal and other Foreign Countries 1901 to 1912	7	86

CLASS I. COMMERCE.

Handelskammer zu Hannover. Die Lage des Klein-	1	367
handels in Deutschland. Bd. I.	1	
Osborne, R. S. Modern Business Routine. Vol. II.	1	354
(The Import and Export Trade)	1	366
Wewer, J. Der Geschäftsmann	1	
Barriol, A. Théorie et Pratique des Opérations	2	392
Financières	2	393
Cummings, J. R. Natural Money	2	395
Desjardins, A. The Co-operative People's Bank ...	2	
Ham, A. H. & Robinson, L. G. A Credit Union	2	396
Primer	2	394
Roulleau, G. Les Règlements par Effects de Commerce.	2	390
Vissering, G. On Chinese Currency	2	
Vol. I. The Monetary Problem.		
Vol. II. The Banking Problem.		
Brown, W. J. The Prevention and Control of	3	326
Monopolies	3	327
Eucken, W. Die Verbandsbildung in der Seeschifffahrt.	3	
Judson, K. B. Selected Articles on Government	3	328
Ownership of Telegraph and Telephone	3	325
Protheroe, E. The Railways of the World	3	329
Ripley, W. Z. Railroads, Finance and Organization.	4	179
Royce, J. War and Insurance	4	178
Schlegel E. Aus dem Versicherungswesen....	4	23
Tuhr, N. V. Das russische Lagerhausgesetz, 1888	6	255
Brookman, T. A. Family Expense Account	7	256
Hay, G. H. The Principles of Check Figure Systems....	7	257
Miller, T. J. Check Numbers	7	
Munro, A. Munro's Book-keeping down to Date.	7	254
5th ed.	7	
Ranking, I. & Others. The Incorporated Students'	7	218
Telephone Nos. 1. 2. 8. 9. 10.	7	

Mason, F. R.	The American Silk Industry and the	2	95
Tariff...	...	...	...

Howe, F. C.	The Modern City and its Problems.	3	225B
Jordan, H. W.	Private Companies: Their utility and the exemptions they enjoy....	3	136B
Kestner, F.	der Organisationszwang	3	226
Bailward, W. A.	Some Recent Developments of Poor Relief....	4	205B
Foss, W. & West, J.	The Social Worker and Modern Charity	4	553B
Hills, J. W. & Others.	Industrial Unrest	4	211A
Hunter, R.	Violence and the Labor Movement	4	564
Keating, J.	The Drink Question	4	316
Keeling, F.	Child labour in the United States	4	569B
M. A.	The Economic Foundations of the Women's Movement....	4	573B
Money, L. G. C.	The Future of Work	4	571A
Nearing, S.	Reducing the Cost of Living	4	556
Picht, W.	Toynbee Hall: and the English Settlement movement....	4	563B
Sheasgreen, E. E.	The Profitable Wage: What is it?	4	570
Webber, T.	The Instinct of Workmanship	4	427
Walling, W. E.	Progressivism and After	4	567
Webb, S.	The War and the Workers	4	572
Burrows, R.	The Law of Income Tax Relating to Business Profits	6	167
Fallon, Y.	Les Plus-Values et l'Import	6	168
Frankhauser, W. C.	A Financial History of California	6	170
Lyons, H.	Principles of Taxation.	6	161
Wright, R. S. & Hobhouse, H. H.	An Outline of Local Government and Taxation in England and Wales	6	164
Young, E. H.	The System of National Finance....	6	169
Brington, W. C.	Graphic Methods for Presenting Facts, Department of Agriculture. Argentine International Trade	7	127
	Statistical Abstract of the United States, 1913	7	126
	London County Council. London Statistics 1912-13. (Vol. XXIII)	7	24
Neeffe, M.	Statistisches Jahrbuch Deutscher Städte. (XIX XX.) Jahrgang.	7	74
		7	32

Ross, E. A. The Old World in the New ... 8 62

Wickware, F. G. The American Year Book, 1914... 3 76

CLASS XIII. PERIODICALS & OTHER MISCELLANEOUS WORKS.

Kennedy, J. M. Imperial America ... 3 76
Miller, W. The Ottoman Empire, 1801-1913 ... 3 74
Rouge, Le. p. h. Republican France. 1870-1912 ... 3 75
Pearson, K. The Life, Letters and labours of Francis Galton ... 4 35

CLASS VII. GEOGRAPHY.

Herbertson, A. J. & Howarth, O. J. R. The Oxford Survey of the British Empire. (in 6 Vols.) ... 2 47

Vol. I. The British Isles.
Vol. II. Asia.
Vol. III. Africa.
Vol. IV. America.
Vol. V. Australasia.
Vol. VI. General Survey.

Verrill, A. H. South and Central American Trade Conditions of To-day ... 2 48
Ball, J. D. Things Chinese. Or notes connected with China 4th ed. revised and enlarged ... 3 148
Hyogo Prefecture Exhibitors' Association. Hyogo Prefecture and City of Kobe ... 3 149
The Imperial Japanese Government Railways. An Official Guide to Eastern Asia. Vol. II. III. ... 4 43

CLASS IX. MATHEMATICS.

Pearson, K. Tables for Statisticians and Biometricians. 1 45

CLASS XI. PHILOSOPHY & EDUCATION.

Hinneberg, P. Die Kultur der Gegenwart. Systematische Rechtswissenschaft. Von R. Stammler. ... 1 35-14
Kant, I. Allgemeine Rechtsgeschichte. Von J. Kohler. ... 1 35-15
Kant, I. Enternal Peace ... 1 66
Nietzsche, F. Beyond Good and Evil ... 1 67
Page, E. D. Trade Morals ... 5 62
Strong, J. The Exhaustive Concordance of the Bible. Knibbs, G. H. Official Year Book of the Commonwealth of Australia. 1901-1913 ... 5 63
3 63-4

Bulletin of the Bureau of Labour (United States of America).
Case of Tuberculous Wage Earners in Germany ... 3 14-7
British National Insurance Act, 1911 ... 3 14-8
Lead Poisoning in Potteries Tile Works, and Porcelain Enamelled Sanitary Ware factories. Retail Prices 1890-1911. Part I. II. ... 3 14-10
Retail Prices 1890-1912. ... 3 14-11
Dangers to Workers from Dust and Fumes and methods of Protection ... 3 14-12
Wheat and Flour prices from Farmer to Consumer ... 3 14-36
The Central Meteorological Observatory of Japan. The Bulletin. Vol. II. No. 3. ... 3 3-18
China, Maritime Customs. Returns of Trade (44th Issue) and Trade Reports (49th Issue), 1913.
Part. II. Vol. III. Central Ports. ... 3 19-17
Part. III. Vol. I. Imports ... 3 19-1
Department of the Agriculture and Technical Instruction for Ireland.
Report of the Department Committee on Agricultural Credit in Ireland. (2 Vols) ... 3 12-1
Final Report of the Commissioners ... 3 12-3
Fourth Interim Report of the Royal Commission on the Natural Resources, Trade, and Legislation ... 3 12-2
Official Report of the National Foreign Trade Convention ... 3 12-4
Report of the Commissioner of Education for 1913. Vol. I. II. (United States of America) ... 3 10-39
Hasse, A. R. Index of Economic Material in Documents of the State of the United States. Ohio, Part I. II. ... 4 27
Kunamoto Higher Technical School. Catalogue of Books in the Library of the Kunamoto Higher Technical School. ... 4 15
Wenckstern, F. V. A Bibliography of the Japanese Empire ... 4 28



同窓會

同窓會記事

○木杯下賜

我同窓會が前年母校開校第十周年に際し記念の爲め母校へ金屏風壹雙を寄附したるに對し今回其の筋より左の賞狀を添へ木杯壹組を下賜せられたり

神戸高等商業學校内
神戸高等商業學校同窓會

神戸高等商業學校へ同校創立十週年紀念ノ爲備品トシテ金屏風壹雙寄附候段

奇特ニ付爲其賞木杯壹組下賜候事
大正三年四月二十日

兵庫縣知事正三位勳一等 服部一三

第九回卒業諸費決算報告

第九回卒業生諸兄
各位益御勇健奉大賀候扱不肖共卒業に關する事務處理の大任に當り萬事充分の御満足を供し得ざりし事と心竊かに恐縮罷在候

茲に諸費用決算を御報告仕候間御覽覽被下度候實は卒業後早々御報告可申上筈の處意外にも殘務多く延引仕候段不惡御諒察被下度候卒業當時失費意外に多く會計或は不足致すべきかと懸念致居候諸兄より追徴を願はずに相濟申候は至極幸福と存候
殘高壹圓餘と一人追試験者未納の分とは阪神地方にある委員の慰勞費として申

本電部話座口替振
校學業商等高戸神
番七三(宮三)
番〇八七四阪大

し受くる積りに有之候間何卒御許容之程願上候

此を以て一先づ事務終了仕候へども尚用事有之候は下名迄御申越被下度候
大正四年七月十日

佐々木卯一郎
助野俊三

諸費用明細報告書

収入ノ部

各自出金 一、四六二・五〇
拾貳圓五拾錢宛 百十七人分

諸先生寄附 三五・〇〇
安國幸左衛門寄附 一〇・〇〇

運動部寄附 四〇・〇〇
計 一、五四七・五〇

支出ノ部

アルバム 八七八・四〇
一冊 四圓八拾錢 百八十三部

旅行寫眞 一九・二〇
引伸寫眞二枚及額 一六・二〇

其他寫眞先生へ贈呈 一三・六〇
發送費 九・七五

箱代 一四・八八
技師謝禮 三・〇〇
紀念品

風呂場建築 貳百〇貳圓五拾錢
學校ヨリ補助五拾圓 一五・五〇

紀念樹 三・四五
木杯 八二・三五

一個 四拾五錢 百八十三個

喜さん自慢の温泉で汗を流した後は涼しい風の座敷を吹き通ほすに任せて酒となつた、お極り文句ぢやないけれど、話が進むに従つて段々と急所をつく様になる。聲張り上げて歌を唄ふ。芝生の上で小兒の様に巫山戯だす。氣障に澄ましこむ人間なんか一人だつて居やしない、あゝ私等の仲間はどうしてこんなに嬉しい者ばかりなんだらふ。

一座の中の一人、それは東京の學校へ行つて居た人、が某君には氣の毒だつたが皆の請に任せて、かの有名な人權蹂躪問題の始末を話した、今更ながら一同は某君の學業優秀なる所以を知りその御両親の德育體育の如何に效ありしかを想像して乾杯するの勢を辭しなかつた。

興湧くに連れて話は又話を生んで行く今は陶然たる仲間の限りなき愉快氣な顔色を見ては誰も盃を辭する者はない、皆酔つた酔つた、只嬉しくて、嬉しくて。後れ走ながら椽側へ「流し」が三味弾きながらやつて來た、これ一興である、忽ち座敷へ請じ入れる。而して弾き出すものは何か？

意外!!!、それは木曾節である、木曾節である、萬事解決、これ等の「流し」は遙

々大阪から來たんだ、しかも三四人連れ立つて。美しい衣服を着て、裾引いて。でもまあ喜さんはどこまでよく氣の付く事やら。

此所ぢや座敷が狭い、そうだ、移轉しよふ、廣い所へ行け、何んだ、下駄がない、構ふものか裸足で行け。

さあ踊れ、いゝさ、さあ踊れ、おや、こりや驚いた、何時の間にそんなことを覺えた、柔かいぞ柔かいぞ、椿さん随分苦勞したらうねえ。

今度は何んだ、五人男か、誰だい、おや、傘で顔を匿くして居やがる、面を出せ面を出せ、出しても損はいけへんぞ、なあーんだい、中内かい。

おい、そんな野暮な踊はよせ、そりや男の聲か女の聲か、いゝぞ、いゝぞ、どこがあるぞ、ほろりとするぞ、おい吉村、何所で覺えた？——なあに水天宮様に夢に教はつた。

輕妙、輕妙、眞物だ、不肖の子に非らずだ、みそぎぞ夏は打ち連れて河原へ集ふ夕涼」喜さん、羨ましいよ。

酔つて暫らく轉が寝の淡き疲れにふさ目を覺ました目の前に、心こめた寄せ書の墨痕鮮やかに、今や醒で

ある。

光ちゃんへ、
次郎さんへ、
大ちゃんへ、
泰さんへ、
萬ちゃんへ、

△降り出しそうな薄曇り
築地の水には灯がうつる
精養軒は明々々
どこでなるのか三昧の音
(光ちゃんへ)

△さみしいさみしい大家の
俺等の住んだあの家は
今宵も細い五月雨が
門の扉に音もなく
(次郎さんへ)

△皆集まるさ君の噂が出ます、酔ひに紛れて失敬な事も言ひました、怒つちやいけません、君は好評噴々たり矣。
△愚痴は無駄ぢやさ知りながら
離れて居るのが氣にかゝる
たゞ希くはおからだな
大事に、大事に、大切に
(泰さんへ)

△美麗、秀才、温厚、瀟灑
羨望の的
(萬ちゃんへ)

何時か晴れた星月夜を、私等は喜さんに別れて提灯の灯をたよりにとぼ／＼と山を下りた。只無言で、しよんぼりと。

木杯發送費	一・五四
謝恩會	
一人壹圓宛 百八十人分	一八〇・〇〇
夢 給仕心付 酒	四〇・〇〇
會 場 裝 飾	一〇・〇〇
招待狀印刷並郵税	一〇・〇〇
其他 雜 費	三・七五
謝 禮	六・二一
校長贈呈品	一三・〇〇
小使給仕心付	二八・〇〇
其他 心 付	四・三〇
諸 雜 費	
筆 墨 費	三・五三
車代電車賃	三・二〇
委員慰勞費	一四・〇〇
晴 風 堂	三・八〇
計	一・五四五・九六
差 引	一・五四
記念メタル	は消費組合拂込金を以て拂ふ

第六回卒業生阪神 在住者集會報告

○その日を懷しみて

綠 荷 生

忙しい會社の事務室でペン執りながらも疲れた腕を休ませるその瞬間にはその日の面白さがつく／＼と思出される。

集まつたものは十二人、豫定の三十人に比べては物足らぬ感がないでもなかつたが、それでも大阪から神戸から、それも四年逢はざる人々が仲間の一人喜さんの苦樂園と云ふ、静かな場所へ集まつてしめやかに飲んだんだもの、矢張り嬉しかった、面白かつた。

梅雨に入つて間もない日曜、月の十三日、午後から夜へかけて同期生の集りをやらうと云ふ通知が較さんからあつたのは先月の下旬、私はどんな連中が集るだらうと非常に楽しみにしてその日を待つて居た。

その日が來た。少し用事があつて遅くなつた私は、午後の雨上りの松原堤を、夙川の上流さして自働車を走らせて居た。勿論苦樂園所屬の自働車だもの、私一人の乗合でも快よく走らせて呉れる。煙草一本吸つて居る間に、山の入口に自働車は靜かにとまつた。

昨日の雨に洗はれた山は靜かであつた飽くまで梅雨の甘味を吸収した草木は青々として夕方の微風に時にざわついては眩しい夕陽の反映がその葉に閃めいた。坂を八丁上りつめた所に神戸高商第六期卒業生御連中と書いた札が立つて居

た。私は御連中とあつたのが馬鹿に嬉しかった、親睦會とか何とか會とかそんなむつかしい野暮は大に忌む所、喜さんは矢張り喜さんだと思つた。席は久方庵に設けられてあつた、其所に浴衣がけの仲間が集まつて居るのが下の小徑からよく見える、自づと足が早くなつて、息切らしながらその中へ飛び込んだ。

少し落ちついてから、すらつ——と一座を見まわす、向ふの連中の視線も私にあつまる、そこで私は只一言「やあ」と言つたきり。挨拶なんか免倒くさい、そこは眼でもの言はせて済ませて置く。

第一に目に付いたのがだぶ／＼と肥つた福岡さん、相變らず紅匂ふ椿本さん、京の東山式の高田さん、少し悪いが歡樂主義の好模型吉川松五郎さん、半分丸なりかけて停止して居る吉村さん、近頃第二世南洋の魚類を現出せしめた山中さん、福山の呉服屋の秘藏息子山本さん、それからついで、中内さん、大連から可愛い奥様を迎えに歸えつて來た上塚さん、見かけによらぬ、咽喉の伊達さん、引きつゝいて、當家の主人中村喜一郎さん、最後に岡さん、これだけがニコ／＼として一座した。

あゝこの次、集る時にはもう何處か遠い所へ行つてしまつて、やつて来ない人もあらふ、人間到る所青山ありとは云ひ條、誰でもこの美しい日本が戀しくない者はあるまい、誰とて日本ほど好きな國はあるまい、私はこの次もその次も、今日の仲間は一人も缺けずに集まりたい、顔を合はせたい。

酔醒の感傷的な私はついほろりと涙が流れた。

二臺の馬車は闇を衝いて下へへと走る、キラ／＼光る苦樂園の灯は次第々々に遠なつて行く、道松原に入り、橋を渡り、鐵道を越え、電車の停留場の白いアーク燈の光りがあゝもう見えた。

(大正四、六、二六、忙しい會社で走り書)

新卒業生在神者會合

喜悅と希望とに充ちつゝ、校門を出で、より現實社會に蠢々乎として暮す事已に二ヶ月となつた。辭れて益々美しきイメーじとなるのは高商四星霜の生活である。別れて愈々戀しくなるは筒井が丘の人と物である。先般來誰云ふとなしに一度會ふつて見たい集りたいとの聲が阪神の地に高くなつて來た。そこで阪神の地方に

居る人々が一大會合を催す積りで色々取りかゝつたが事情が許さない爲めに大阪と神戸とは別々にやる事とし神戸の方は萬事能勢良二君の御手を煩はす事とした。

六月二十六日 土曜日 元町三輪亭

時は涼しい夕方であつた。風呂から上り浴衣がけで一同座に着いた。御機嫌斜ならぬ若殿の面々。助野君の開會の挨拶が濟むや直ちに機關銃の如く杯が轉轍した。喜色滿面浮世の善惡を打ち忘れた若人連の神遊する此の様は人が見れば嘸羨やんだであらう。

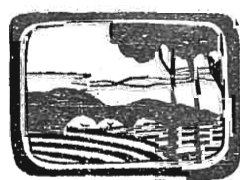
中島信一さんは門司に歸る途中多忙を繰合はして會いに來て呉れた。藤田ダンツク兄は遠く滿洲シベリヤに雄飛すべき途上折よく繰合して來會して呉れた。道理でポケットには護身用一挺、鍛冶屋はん「實保二君美田の龜さんもやつて來た大阪から山口銀行の加藤輝次君、住友銀行の白井長三君の遠來あり。

酒の廻るにつれて興は愈々深くなつた此方の Group では佐野の政ハシ中西寛さん中村寛一さん能勢の良さん等がシンミリ話をすれば彼方では酒井茂さん専攻部に行く畑徳さんや三井の倉西さんに扮は

世古口さん等がデカンショを歌ふて居た。

十一時半頃にぼつ／＼解散の色が見えた。歸る時分には折悪しく今日來られなかつた校友の噂をし乍ら別れた吉野英俊君松田義樹君山口爲三郎君等は来る筈であつたのが突然用事が出來たと云ふ又話は各地に散任して居る學友の上にも及んだ。

夏の夜半街路は寂寥只神戸高商の正氣のみ盛んであつた。(蘆山生報)



海外通信

倫敦通信 (其五)

五月十五日

支 羊 生

一、毒瓦斯
四月は大體に於て戰況聯合軍に有利であつたが、月末から五月にかけて面白からぬ事が續出する様になつた。

その第一は獨逸軍が白佛の戰場に於て

不法にも毒瓦斯を應用して、英軍の陣地を奪取したと云ふ出來事である。

何んでも爆發の際に有毒瓦斯を發散する仕掛のものを投げ込むことゝ、獨逸側の塹壕へ瓦斯の發生機を置いて風向のよいとき聯合軍の居る方向へ放散することなどが、その方法で、この瓦斯にあてられた者は、甚しいのは間もなく斃れ、さなくも數日にて落命するのが多いらしく其の毒作用は頗る猛烈で被害者は殆んど見るに忍びない程の苦しみ方をするものである。

英國政府は早速専門家を戰地へ特派してその影響を調査せしめたが毒瓦斯の成分は能く判らず従つてその治療法も決定せられぬ様である、唯その主成分は鹽素だと云ふ事で英國軍は早速篠口具を用ふることになつたから今後は著しい被害はあるまいと思はれる。

この瓦斯の爲めに英軍は一月月許前に獲得して大喜びをしたニューシャベル附近の進軍地域に數倍する地面を一舉奪ひ去られたのである。

二、露軍の退却

本項に關する原稿一枚見當り不申候につき幸に御控にても有之候はゞ更に御回送を得て掲載致度と存候

(窪田)

三、「ルシタニア」號の沈没(二)

去る七月の午後四時二十分頃「ルシタニア」號遭難の凶報はロイド市場に發表されたのである、自分は商賣の關係上それから數分の後に是を知ることが出來た店の内は一種悲愴の空氣が充ちて右往左往に動き廻はつてゐる人の顔には沈痛の色が現はれてゐた、逆も落付いて店の内に居ることが出來ぬから直ぐに飛び出した、世間ではまだ何も知らぬが海運と保險の中樞である「レデンホール」街や「コーンヒル」通りに行きかふ人の様子は落付かぬものがあるやうに見えた。

そして一般の世上に此の悲報の傳へられたのは其の日の六時頃であつた。

「ルシタニア」號は一番新しい船でもなければ一番早いと云ふ船でもない同じ「キナード」社の船でも是より新しい同型の船が外に二隻ある然し明治四十年に英國政府の補助の下にこの船が出來て今迄獨逸船に占められて居た速力上の最高の地位を英國に復舊した以來、今日まで八年間大西洋通ひの客船中では最も有名なもので開戦以來も他の姉妹船は休航勝ちであるのに不拘この「ルシタニア」號だけは定期航海を續けて居た。

所が今月の初同船が紐育を出帆する一

兩日前獨逸の駐米大使館は主なる新聞紙上で「英國船は獨逸潛航艇に撃沈さるべきを以て危險也」とて米國人の乗船を戒め又獨逸側は變名偽名を以て「ルシタニア」號の乗客に戒告の電報を發したりなどして極力米人の同船に搭乘することを思ひ止まらうと苦心した。然し是等の事は例の獨逸の恐喝手段として一笑に附せられたもので一、二、三等合して一千二百の乗客は平然として是に乗船して米國より歸航の途に就いたのである、そして早や六七時間で「リバプール」へ着くと云ふ日の午後二時過ぎ愛蘭の南岸五六哩の沖合で獨逸潛航艇に襲はれさしも排水四萬噸、長さ百三十間、巾十五間速力二十五節の巨船も十數分の後海底に沈み乗客船員合して一千九百名の内助けられたる者僅に七百五六十名にて一千百餘名の生靈は魚腹に葬られたのである。

四、「ルシタニア」號の沈没(一)

この事件は二月十八日に獨逸が英國の海岸を封鎖することになつて以來の椿事で是れまでは三四の例外を除いて、沿岸通ひの低速力の小型汽船や漁船がやられるものに極まつて居た獨逸潛航艇が爰に

はじめて大手柄をしたもので、獨逸で満足の笑を洩らしたとは左もあるべき事である。

この船の撃沈と云ふ事は何等軍事上直接の効果のないことは云ふまでもないが獨逸の海軍としては直接の効果の有無を問ふてゐるやうな贅澤は出来ぬので手段を選まず英國を喝する策に出づるの外はないのである、丁度將棋で負けかけた者が逆も對手を詰めて了ふだけの持駒もなく成算もなくとも兎に角「王手」をやつて見て一時の急場を救ふやうなものである。

こう云ふ目的を有する死物狂ひの、窮餘の策としてはこの「ルシタニア」號の撃沈はまづ成功である云はねばならぬが又同時に如何にも惨忍非道を極めたもので今にはじまつたことでもないが開戦以來の之等の暴舉により獨逸は文明國の看板を外したものと見なければならぬ。

五、英國の劇怒

毒瓦斯に續いて「ルシタニア」號の沈没があり更に十日にはジェペリンが東海岸に來て百箇内外の爆弾を投下した、こう云ふ出来事が重ねて發生しては流石の英國人も肝癢を起すのも無理もない事である。

ある。

開戦以來獨逸に對する憎惡は無論英國に満ちて居た、然し其の最も高潮に達したのは最近の事で「ルシタニア」號事件は最大の刺戟であつた。

そしてこの英國人の肝癢の事實に現はれたことは二つある。

一つは商業區域の「シチー」で「ローヤル、エキチエンデ」及「バルチック」の兩取引所が獨逸人の排斥を行つた事で、次は「ロンドン」市中各所の貧民窟で獨逸人の店舗を破壊し激昂した下級の民衆はその商品家具を持ち去つた事である戦争開始の後獨逸人は一定の制限の下に商業を行ふことを許されたのであるがこう云ふ具合では逆も商賣を續けてゆく事は出来まじく、又從來英國人として取扱を受けてゐた獨逸生れの歸化英國人も同様に迫害を蒙る事になつて今迄單に「獨逸人御斷り」と貼り出して居た料理屋、ホテル等も昨今「獨逸人は歸化せると否かを問はず一切御斷り申上候」と書いて貼出すやうになつた。

こう云ふ事情になつて來たが爲め獨逸人をその儘にしては彼等が如何な目に逢はされるかも知れぬと云ふ事と斯かる野

蠻な危險な國の人間を英國内に自由に野放しにして置いては英國人は枕を高くして眠られぬと云ふやうな兩様の理由の下に一切の獨逸人は抑留して了ふの外はないと云ふ説が出て目下議會と新聞紙の問題になつて居る。

歸化してゐるものは兎も角さうでない獨逸人は多分抑留されて了ふ事になるだらうと一般に觀測されてゐる。以上

天竺浪人放語

春 濤 生

第一信

五月三十一日、會報四月號落掌、新學年の開始と共に貴誌面目一新、確に一段改善の跡を認め申候。

四十頁の内容按排、一に新編纂委員「驚駭車」氏苦心の結晶と奉拜察候。

「草合畷壇」の新設、「入學受験の回顧」は全く、今様デアーナリズムの色彩を遺憾無く發揮せる様被存候。

津村先生法學博士の學位を授けられ候事并に右に就ての稱讃の辭が本號の四箇所に散見致され、小生も遅蒔乍ら遙かに恩師の御名譽を奉祝候。

會報月刊制の維持は小生の極力賛成致度事に有之、新學年劈頭の會報は從來往々にして五月に發行致されしにも不拘、本年は無遅滞四月號の發行を見た事、平凡には候へ共小生は編纂部の一大成功と奉存候。

會報も號を重ねる事既に八十九、常に移り行く學校の氣風も潜かに窺はれ、之を接手する毎に、母校同窓發展の跡も辿られて、洵に愉快に堪へざる次第に御座候。

常に何かを書くに申す事は、最も廣く自家廣告を爲し得る一手段「奴は生きてゐるね」といふ觀念を讀者に與ふれば足れりと奉存候。此の點に於て「兜町」の丹羽氏は同好の一友に御座候。

(大正四、五、三二、英領印度マドラス州ガンタカルにて)

第二信

本日、會報五月號落掌、本誌四十頁、小冊子なりと雖も、號を重ねる毎に、内容の充實、體裁の改善、歴然として其の跡を見る事は、全く編纂委員の忠誠なる努力の然らしむる所、之を三年以前、小生其の任に在りたる當時の貧弱不備に比すれば、其進歩は洵に隔世の感有之申候。

昨今、當デカン高原、蓋天是れ暗雲、卒然颶風至り、沛然驟雨を見る等、モン

スウン季到來を示し居申候。マドラスとハイデラバッドとに馳驅六旬、小生本月末を以て一先づ孟買に引揚可申、其の前數日、マイゾール王國はバンガローアの靜閑地に、雲時一と息納れ度と存候。

印度には、未だ一臺の飛行機も無之、其の原因は恐らくモンスウン等異常なる氣流の激變に可有之と被存候へ共、若し今後、より進歩したる、より改善せられたる飛行機を得て、天竺天に舞ひ上り、以て印度空界の魁を爲したらんには、必ずや一舉千萬金を贏ち得る事易々たる可しと思考罷在候。

(大正四、六、一六、ガンタカルにて)

孟買同窓會

利根龜兒、八木清太郎、松阪啓太郎、山中周平の四氏を失ひたる我が孟買同窓會は今回新に、中尾優氏を迎へたり。而して幸ひ荒木忠雄、松尾豐實兩氏の來孟を機とし、七月一日夕、日本人俱樂部に同窓會を開催したり。

當日出席者左の如し。

荒木忠雄 中尾 優 内藤 次郎



維

組

三人の男

四 山 生

利巧で熱心でそして度胸骨が据つてゐれば男一匹、何事かを仕出來そう、こんなのが三人集つたのだから大變である。關は卒業後保險界を切り廻してゐたが今度八千代生命の福岡の支店長となつて赴任する事となつた。

龜井は卒業後鈴木商店にゐたが香港上海を經廻つてブラリと東京へ出て來た爾後鈴木商店を代表して東京で腕を見せると云ふ。

和田は母校を出て後古川へ入つてゐたが、此度選拔されて印度南洋方面へ視察旅行に出かけるので一寸上京したといふ。

どうもえらい事になつて来た、東京に情眼を食つてゐた我等は何だか尻が擦つたくなつて来た。

この三人、生れは九州、長州、紀州と異れど人間が振目がなくてそして度胸のいい事は一致してゐる、かく三名物男が集つたのさへ面白いのに、しかも關は暫く筑紫へ去つて當分あへないのだから送別の意を表して置きたく、龜井和田は遠來の珍客だから、大に歓迎したく、彼是をかねて一夕集まつて相變らずの惡口を交換しようぢやないか、よからうと忽ちお江戸は日本橋の末廣に集つた。

關と云ふ男、肩幅廣く丈高く大きな口をへの字に結べば其の圖々しさ底知れず保険界の有象無象を相手に浮世の荒浪を切り抜けること控所の火鉢會議を牛耳るよりたやすく、凡そ面の皮の厚きこと此の男の上はあらしと豫て同人の間に定評ありしが、世には上手のあるものにて、龜井と云ふ男の口の惡るさは如何なる甲鐵板をも破らで置かざることを獨逸の潜航艇の如く、はた又庭球選手の足の裏の如く、關子相手に突つかけ／＼射出す舌弾にさしものおん大、たぢ／＼の態となつて聊か閉口の表情を示したのには一同呆

れ返へり世には恐ろしき舌もありけるよと唯感嘆の外はなかつた。

こんな他愛もない事に云ひ知れぬ興味を覺ゆるも友の有難さである、御互に勤め先きでは之れでも少々故參になつて至極尤もらしい顔付をしてゐるのだが、揃こつ集つて見ると争へぬは學友の間柄、中には復數の子供を有する人もありながら等しく學生時代に返つて無邪氣至極な談話に花を咲かせるのであつた。

例の通りながら校長諸先生の噂、學校の近況同窓の動靜、ありし當時の熊内村の出來事、そんなことがそれからそれへと語り次がれた。

送別歡迎の意を籠めて撮影した寫眞、これには此の家の美人連も交つて不少興を添へた、遅れて馳せ付けた和田子が其の廣い額を現はしたのは既に杯盤收められんとする頃であつた、又一しきり話が湧いた。

こうして楽しい一宵を送つて十一時近く再會を期して散解した、去る關子に來る龜井子、離合常なき人の身の上を想ひつゝ、

因みに當夜の出席者左の如し
山口君、山本君、長石君、岡部君、

れ以上書かない、あまりに月並になるからである。

× × × × × ×
三十日午前十一時、ハルビン丸は君を上甲板の寢椅子に横たわらせながら靜に神戸を出て行つた。

健かな、いゝ肉付の君の姿が次第／＼に遠ざかり小さくなつて行つた。

日の暮れ方、船が瀬戸内の夕映の中を走るとき、甲板に立てる君は恐らく一滴の涙の胸に湧くを禁せられまい。

私等は暇ある毎、筆の手にある毎、大連の時友さん宛の手紙をポストに投げ入れたいものである。

(暑い夏の午後三時、忙しい會社で)

熱き夜の牛鍋

石 井 報

○津村先生が小樽高商へ出講の歸りに二三日東京で遊ばれた。此の機會を利用して博士になられたお祝ひの意も兼ね久しく先生と逢はぬ連中の顔合せもしたいといふのが此の夜の會の主旨であつた。ところが時日に餘裕がなかつたので各回の幹事諸君にだけ通知しそれから又それぞれ通知を出してもらう事にした爲め第一

米津君、鹽野君、中山君、三浦君、關君、龜井君、和田君、岡君、

(順序不同)

好きな瀬戸さん

綠 荷 生

何れは海を超え知らぬ土地に住まねばならないとお互に云ひ合つて居るものゝ、さて突然そうなつて見ると、今更ながら別れるのがしみ／＼と厭になる。

鈴木商店に入社つてから漸く一年半、その間、我が瀬戸さんはせつせと働いて居た。無邪氣な、愛嬌のある、そして中々に押しの強い君は鈴木商店に持つてこ

いの人にちがひないと思つて居る。今年春、君は滿洲から青島へかけて二月許り旅行して來た、何を見、何を考へて來たか、それは私は知らない、しかし君が旅行から歸つて間もなくして、大連の同店へ行く事となつた事が私等に聞こえた。

誰が云ひ出したのかそれは知らぬ、しかし恐らく君ほど、同期の仲間に評判のいい、親しまれた人はなかつたんだもの、先月の二十七日に、親しい神戸に居る者

回の卒業生諸君の如きは殆んど全部の通知もれと云ふ様な不始末も生ずるに至つた。加ふるに専攻部は試験最中であつて自然豫期よりは少數であつたが急の催しとして三十人の會合は可なりの勢揃ひであつた。

○時は六月十六日夜。から梅雨續きの大暑日和はこの日も九十度を越すといふ勢ひ、北海道で梅と櫻をこき混ぜて何とか谷にリリーを採つて大正四年の春に二度出會された先生にはそれ丈げでも大汗の處を面當がまし／＼と並べたりな牛鍋十有六、場所は四谷見附の三河屋である。

○抑も此の會を思ひ立つた當時會場を何處にするかといふ事は第一の問題であつた。嘗て水島校長の歡迎會をやる場合に某會場を選定したところ或卒業生はそんな書生的な處でやつては紳士の體面に關するとか叫ばれたといふ話を承知してをる幹事に取つては少からぬ頭痛事であつたが結局例の横着心から若し文句をいふ人があれば御勝手になさるがいゝと從來専攻部連で社會政策學會に見へる先生方を歡迎する場合いつも牛鍋をつゝ先例と神戸の昔を偲ぶすがにもと思つて獨斷で三河屋の牛鍋會と定めてしまつた。勿

だけで送別會をやる事になつて見ると二三人の人を除く外全部集まつた、非常に情のあつい喜さんはわざ／＼苦樂園からやつて來た。

私は、私が子供の自分から所謂仲好しの友達であつた時友さんのためにその晩集まつて呉れた人をどんなに、嬉しく思つたらう、勝手がましいが瀬戸さんの心を推量して私からも厚く厚く御禮を申上げる。

北村さん 井上さん 丹治さん 音さん 岡さん
吉村さん 豐島さん 川島さん 田中さん 小穴さん 中村さん

場所は相生町のミツ輪でやつた。すべて捉はれざる事を主義にして居る私等仲間が學校を出ても大人びてもやつぱり堅苦しい會は御免を蒙らねばならぬ。幹事になつた人がよく捌けて居て、今日はすべて制限なしと云ふ事になつた。

お互によく飲んだ、よく語つた、よく騒いだ。

眼を病んで縋帶をして居る瀬戸さんを圍んで、祝盃を舉げた。

會が始まつてからこの祝盃まで二時間を費した。この間に皆、いゝ顔色になつてしまつた。

いつも／＼同じ事だから會の記事はこ

論梅雨中の事、その夜は小雨位降つて涼風鍋を吹いて自ら何とかする位の事はあらうと想像してゐたに反してその暑さは如件。シャツ一枚になつて濡手拭を頭に掛けて鍋をかき廻すといふ有様、苦しいのを我慢して大いに愉快だと汗と涙を一所に拭いてゐた人がないとも限らない。○喋舌り放題、飲み放題、食ひ放題で自ら學生會館時代の氣分が漂ふて来る。「お前は上野時分からよう飲んだやないか俺が酌したるから飲めや」と杯をすゝむる親切な先輩もある。二回も三回も八回も九回も先生を圍むで皆一しよになつて一様に心地よく酔つた。○斯ふいふ會には無くてならぬものだ。あつて私が當夜の幹事として會合の主旨を述べる次で三回の岡君が先生に博士になられた祝詞を呈すると先生が立つて一場の述懐談をせられた、東京の新聞と一しよに唄はれた自分も東京新聞が時に朝神戸に着く様に時々朝から學校に出るやうになつたといふ様な話の一節もあつた。

○飯を食つて菓物をたべて喋舌り疲勞れて打揃つて門を出たのは十時であつた。「熱かつたが愉快だつた」

これが外に出てから最初の先生の言葉であつた。

○當夜出席の諸君左の如し。

下山(第二回)

岡 鈴鹿 山口 龜井 岡部(第三回)

石橋 鈴鹿 田代(第四回)

服部 安保 荒山 原田 金井 片岡

小山 久保 日塔 齋藤 富本 吉田

石井(第六回)

本間 川人 土肥(第八回)

三浦 松村 濱野 藤澤 山村(第九回)

尙當夜の會費殘額一人に付參拾貳錢は各回の代表者にお渡しして置きましたから御受取下さい。

○水島校長轉地

水島校長には暑中静養の爲め本月六日單獨大分縣別府へ赴かれたるが、滞在は約一ヶ月の豫定にて旅館は同地紅葉館なり。

會員錄調製に

つき

同窓會員錄調製可致候間左記事項更めて御通知相煩度候調製方は例に依り十一月中に大體の印刷を終り十二月十日頃迄

に發送を了るべき手筈につき今より御通知に預り置き其の後の異動は更に御追報を得度希望に御座候尤も此れまでの異動は御報告の都度一々當方に記録致居候得共多數中或は書洩等の手落も可有之かと存候につき既に御報告ありたるを否とに拘らず此の際舉げて御通知相煩度心得に御座候殊に十二月入營せらるゝ向の如き際疾き異動は一刻の猶豫無く御通知に預り度縱令大體の印刷は終り居候とも出來得る限りは追録として掲載致度心得に御座候 (窪田庶務)

一、氏名

羅馬字綴にて讀方をも示されし。

二、就職先

自營、修學中の方も之に準して御通知ありたし。

一、會社名、店名其他就職先の名稱。

二、所在町名。

三、營業の目的(可成詳細)

四、電話番號(平常主として御使用のもの)。

三、住所

一、現在住居の場所。

二、自身は現在住居せざれども多くの

場合に於ける本籍地の如く親族方などの住まはるゝ第二の根據地あらば其の場所

三、電話番號

四、本籍地

唯本籍地といふ名のみにして實際生活上に關係なく又第二根據地にもあらざる場所ならば其の旨附記せられたし。

五、其他記載を望まると事項以上

○會員動靜(八月十八日記)

▲通常會員

A の部

●淺野孝之助君(二) 店用にて北米合衆國及英領加奈陀へ旅行中の處七月上旬無事歸朝せらるゝ(大阪市外川崎阪部商會)現住、兵庫縣武庫郡西宮町字北ノ口一〇九九ノ一

●足立 利夫君(六) 七月七日專攻部銀行科を卒業し同月十五日より東京市京橋區木挽町七丁目十五銀行に就職せらるゝ(現住、麻布區本村町一四〇長谷川方)

●荒山 泰君(六) 今回紅葉屋銀行在職の儘にて東京市日本橋區青物町二六東京株式取引所仲買人神田喜九郎商店(電本局三〇六八番)に勤務せらるゝこととなりたり(現住、小石川區駕籠町五一葉鳴館(八月十日報))

●荒木 三郎君(八) 專攻部夏期休業中は名古屋市西區錦町一丁目三、竹内和佐子方に滞在

B の部

●馬場 三平君(二) 日本綿花漢口支店より米國出張所勤務に轉ぜらるゝこととなり過日來歸朝中の處多分八月二十五日横濱解纜の阿波丸にて赴任せらるゝ(答)

c/o the Japan Cotton Trading Co.,
Fort Worth, Texas, U. S. A.

●板東武八郎君(九) 過月臺灣銀行本店へ着任の處程なく病氣に罹かれ請暇の上七月二十四日徳島市南佐古町下大安寺東の丁へ歸着當分同所に於て静養の寄

C の部

●張 潤 遠君(五) 轉居、京城府慶雲洞八十一番地

D の部

●伊達泰治郎君(六) 轉居、日本郵船會社横濱支店勤務の處今回大阪市北區富島町同社大阪支店に轉ぜらるゝ(現住、大阪府吹田町松ヶ鼻一一二五(六月二十六日報))

●團野 郁治君(七) 兵庫縣武庫郡西須磨字新田二四五番屋敷(須磨停車場東へ二町海岸鐵道線路北側)

F の部

●福井 敬三君(二) 小生儀昨年末より山口縣徳山町に出張豫て密接の關係有之候飯野商會に兼務罷在候處今般同商會當地に店舗新設仕候爲め松浦炭坑を辭し同商會に専任仕り石炭販賣若松阪神間曳船並に吳

藩内ステバドアー業務に従事仕候間公私に關し不相變御引立被下度希上候尙現住は吳市城山町百七番屋敷に有之候云々(八月十七日付吳市發同窓會宛)

H の部

●濱本 眞策君(七) 青島岩城商會を辭し牛莊海岸通船船代理店合名會社東和公司(石炭、棧橋、倉庫、委託賣買業)に就職せらるゝ(六月二十八日報)

●濱井 定君(三) 勤務先の名稱及住所左記の通り變更(全羅北道井邑郡井邑全州農工銀行井邑支店)住所、井邑面水城里

●服部 岱三君(七) 七月四日第一次勤務演習を了へ十日朝鮮銀行京城本店へ歸任の處更に大連大山通同行大連出張所勤務の命を受け同月二十四日着任せらるゝ

●原田 萬治君(六) 外務省通商局第二課勤務の處過般同局第一課へ轉ぜられ本年中は此の儘本省に勤務あるべしとたり

●菱田 慶藏君(七) 七月七日專攻部(領事科)卒業後神戸市榮町六丁目金三商會に於て米穀、花菱及び雜貨類の直輸出業自營を開始せらるゝ

●濱田 茂君(七) 七月七日專攻部(銀行科)を卒業せらるゝ

●橋本 良平君(七) 同上(商工經營科)

●林 庸夫君(八) 轉居、東京市小石川區青羽五丁目一七番地三上カ

●堀内 喜一君(五) 芝罘岩城商會支店船艀部勤務(二月號記事訂正)

I の部

●石川茂兵衛君(二) 商業視察の爲め七月五日

神戸解纜の賀茂丸にて濠洲へ向け出發せらるる同地視察
後は米國へも渡らるゝ都合にて歸朝は本年末頃の豫定
なれども場合に依りては歐洲をも視察せん希望なれば
或はそれよりも後るゝこととなるやも知れずなり

●稲田康治郎君(三) 第一銀行神戸支店勤務の
處神戸市兵庫鍛冶屋町同行兵庫支店に轉せらる(六
月二十四日報)

●今川武一郎君(二) 住友銀行博多支店勤務の
處神戸市榮町一丁目同行神戸支店に轉せられ八月一日
着任

●伊賀 誠一君(二) 慶尚農工銀行大邱本店諸
の慶尚南道統營同行統營支店に轉せられ八月四日着
任

●池尾 與一君(七) 去月大阪商船株式會社に
入社の處米國行汽船はわい丸事務員を命ぜられ八月十
六日神戸解纜初航海の途に上らるゝ筈但し郵便物は神
戸市海岸通三丁目同社神戸支店交付の事

●岩本 省介君(四) 五月八日神戸出發同月三
十日メルボルンに到着せられたる由にて約一ヶ年間同
地及シドニーに滞在せらるべき豫定なり

●石井光次郎君(六) 六月十九日附を以て内務
屬兼任衛生局勤務を命ぜらるる但し此の方は時折都合を
見計ひ出勤せらるゝ位にて平常の勤務は從前の通り警
視廳保安部交通課

Kの部

●近藤林三郎君(七) 七月七日專攻部(銀行科)
を卒業し尙今岡山本と改姓せられたり但し住宅は從前
の通り東京府豊多摩郡中野町一六二九四、

●香春 敏夫君(七) 七月七日專攻部(交通科)

を卒業し大阪市北區富島町大阪商船株式會社に就職せ
らる計理課勤務

●川島 精三君(六) 七月十七日より神戸市海
岸通二丁目勝田商會に就職せらる○現住同市楠町四丁
目二六ノ四河村方

●履輪 雄二君(七) 上海宜昌路、内外紗廠(内
外綿株式會社支店)に就職せらる(六月十七日報)

●岸 信雄君(三) 七月一日より神戸市播磨
町紐育スタンダード石油會社神戸支店に就職せらる

●金原 敏雄君(二) 横濱正金銀行大阪支店勤

拜啓小生儀去冬來須磨に居住致居候
處今般左記の通轉居致候間此段御通
知申上候

神戸市葺合町(熊内池の西)
千九百二十三番屋敷ノ三
石橋 五郎

務の處同行上海支店に轉せられ七月二日神戸出帆の
春日丸にて赴任せられたり○留守宅は東京市牛込區矢
來町三番地山里百〇四號

●小杉 儀雄君(九) 七月七日より神戸市元町
七丁目不動貯金銀行神戸支店に就職せらる○現住同市
葺合町千七百二十の百三十本間久七方

●唐澤 純正君(五) 轉居、東京市芝區二本榎
町一丁目十番地(日蓮宗々務院西)

●木村登太郎君(六) 五月末第二次勤務演習
終了後は郷里にて家業に従事し居らる(和歌山縣日高

●森塚光次郎君(四) 昨年九月上旬頃より病氣
に罹られ爾來兵庫縣武庫郡西須磨、須磨浦療養院へ入
院中なるが未だ十分快方に向はざる爲め當分は尙引續
き同療養院にて養生せらるゝ趣なり尤も神戸瓦斯會社
の方は六月限り既に辭職せられたる由

●水谷 恭三君(八) 日本製鋼所東京出張所勤
務の處北海道室蘭母戀なる本社に轉せられ七月上旬
着任

●三崎伊太郎君(二) 轉居、大阪府豊能郡池田
町字西ノ口二八〇一番地(くれば橋東詰南一丁)

●武藤 松次君(二) 三菱合資會社本店營業部
勤務の處七月初より同社内臨時製鐵所建設部勤務に轉
ぜられ尙八月一日より三週間久留米歩兵第四十八聯隊
に召集せられ同月末歸京の筈

●村尾 龜一君(八) 轉居、神戸市串手通六
丁目三三ノ一中西市介方

Nの部

●中村 源藏君(四) 大倉組東京本店在職の處
滿洲本溪湖鐵道公司に轉職せらる(七月八日報)

●西本 九藏君(二) 五月中旬頃より久原鐵業
株式會社に入社茨城縣多賀郡日立村同社日立鐵山事務
所調度課に勤務せらる

●西田徳三郎君(七) 七月七日專攻部(商工經
營科)を卒業し大阪府西成郡勝間村五三ノ一へ歸省
中なり

●日塔 治郎君(六) 轉居、東京府東葛村宮仲
二二五九番地

●中司 窮君(七) 第一次勤務演習の爲め六
月一日より九十日間小倉歩兵第十四聯隊第五中隊に入

郡松原村大字濱の瀬八五

●久野 敬輔君(七) 約半ヶ年間の豫定にて相
州鎌倉圓覺寺内黃梅庵に參禪但し郵便物は便宜上圓覺
寺前舊屋方宛に願ひたしとなり

●加藤 外松君(五) 七月十四日外交官補に轉
じ伯刺西爾國在勤を命ぜらる

c/o Japanese Legation, Brazil.

●茅壁 榮助君(八) 轉居、京都市外下鴨村一
三宮崎長四郎方

●上月 季雄君(六) 三月二十八日以来病氣の
爲め日本赤十字社病院に入院療養中の處追々快方に向
はれたるよしにて近日退院すべしとの通知ありたり郵
便物宛先は東京市外下灘谷二六二(羽根澤)海老原方宛

●加納 貫三君(七) 轉居、兵庫縣武庫郡御影
町寺前通常順寺前

●駒田 行雄君(八) 專攻部夏期休業中は三重
縣安濃郡安西村大字北神山三百六十八番地に歸省

●小宮小四郎君(七) 轉居、神戸市葺合町二一
一六ノ三(神學校下)

●木谷 勝郎君(五) 轉居、岡山市門田屋敷百
三十三番地

●近藤正太郎君(六) 神戸製鋼所を辭し上京中
の由なれども現住未詳○住ノ二は高知市通町二六ノ
一

●久角 徳君(六) 拜啓卒爾ながら昨年末配
付相受け申候同窓會員名簿何者にか騙取せられ何とも
申譯無之候實は昨日同窓の南部君宅へ同君の不在中に
年配三十四五の男入り來りて岡田君の紹介狀を示し且
野田君の消息を談り最後に金壹圓貳拾錢の借用を申

營せらる

●中妻 三郎君(五) 大分縣別府町字流水に於
て雜貨商を自營せらる(報道渡)

●野田 稔君(二) 現住、四日市市北川原町
九十二番地

●野坂喜代志君(八) 轉居、東京市小石川區小
日向水道町九〇杉山新二郎方

Oの部

●大邊 修君(八) 江商合資會社大阪本店勤
務の處今同社孟買支店に轉せらるゝことなり九月
初頃出發せらるべしといふ

●大田 英爾君(九) 八月二日より大阪市北區
堂島濱通三丁目四、安田館内茂木合名會社大阪出張所
に就職せらる○現住、同市北區上福島北三丁目一九〇
ノ一西原方

●大野 元輝君(二) 過般都合に依りて滿鐵を
辭せられたるやに開けり○現住、東京市芝區白金志田
町八十六番地

●大野 辰見君(七) 七月七日專攻部(貿易科)
を卒業せらる

●荻原 一郎君(三) 南滿洲鐵道會社新嘉波出
張員として同地出張中の處五月末大連本社へ歸任せら
れたるよし

Sの部

●佐野 政一君(九) 現住、岡山市内山下石山
上星島方(當分滞在)

●酒井 茂君(九) 白井商店辭職の上在蒲潮
斯德光武商店に従事せらるゝことなり七月十九日着任
c/o Mitsuke & Co.

込みしも不成効に終りし由にて同君より警告を受け申
候之れと同日小生宅に於ても小生の出勤中に申村と稱
する同一風體の者來りて南部君宅にて演じたること同
一筆法を以て家人を欺きその油斷に乘りて會員名簿の借
覽を申入れ且小生の出勤先を尋ね今より訪問し名簿は
同所に於て返却すべき旨を告げ持ち去りたる次第にて
騙られたること最早や疑無之名簿は再び小生の手許
に戻るべしと思はれ不申願くば右名簿の何等なすな
くして終らむことを祈り居候云々(七月十日付同窓會
宛)

Mの部

●松阪啓太郎君(四) 久しく三井物産會社孟買
支店在勤の處大阪支店へ轉任のことなり六月十六日
孟買出發歸朝の途に就かるゝ趣通知ありたり尙郵便
物宛先は當分京都市竹屋町高倉角松阪常藏方に願ひた
しとの事なり

●松島 鹿夫君(四) 三十四銀行を辭し滋賀縣
屬に就任せらる(六月二十二日報)

●松田 義樹君(九) 勝田商會備船大越丸濠洲
行につき一航海丈乗船の事となり七月六日神戸港出
發門司小樽等に寄港し同月二十日横濱出帆メルボルン
に向け就航せられたり歸朝は十月中旬なるべしといふ

●松居 吉應君(七) 七月七日專攻部(領事科)
を卒業し東京市丸の内三菱合資會社へ就職せらる

●師尾 誠治君(七) 七月七日專攻部(商工經
營科)を卒業し同月十日横濱出帆の天洋丸にて渡來の
途に就かれたり目的は商業視察にして滞在豫定約半歳
その間の郵便物宛先左の如し

c/o Information Bureau,
of The Japanese Concession Company,
444 Bush Street, San Francisco, U. S. A.

一金四圓	甲	一口	三、四、五、六、七、八、九、十月分	妹尾光太郎君
一金四圓	甲	一口	三、四、五、六、七、八、九、十月分	柏原 正容君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	榎原 元一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	榎原 共造君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	岡部 明治君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	伊藤 龍二君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	小泉 種秋君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	玉垣 德藏君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	由利 元吉君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	松田 實吉君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	丸谷 喜市君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	久住信太郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	依藤 正君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	山田正太郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	井上 雄三君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	佐藤 覺次君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	富士澤仙之助君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	岡 誠治君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	川崎 恂一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	竹田龍太郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	津田 十郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	北村定次郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	藤田 信一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	望月 瑛君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	後藤 謙三君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	稻田康治郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	伊藤 長藏君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	豐島虎太郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	高村 小七君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	高村 一郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	松浦 雄吉君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	松野虎五郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	二見 松三君

一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	中田五郎一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	山口 五一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	坂東 宣夫君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	谷川 幸次郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	和岡 喜八君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	水谷 勝郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	小宮 少四郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	前川 輝彦君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	七田 常一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	林 真吉君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	岡本 亥一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	湯川 滿次郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	金井 治平君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	土肥 東一郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	竹井 經君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	近藤 得三君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	齋藤 豐太郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	柴田 博次君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	保田 長夫君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	松原 三郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	賀來 興次郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	北谷 與一君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	金子 民次郎君
一金四圓	甲	一口	六、七、八、九、十月分	北川 辰次郎君

編纂餘言

▲秋とはほんの暦の上で残暑未だに三伏の暑さに劣らず、寒暖計は日々九十三四度を昇降して天地爲に灼くが如く乾坤烘ゆるが如き酷熱ふせぐに由なき折柄諸兄

には如何御凌ぎ被遊候哉
▲葺合の丘も彌が上に乾燥して多くの葺人を留め不申空々夏枯れの有様に御座候只調査室や圖書館にありて卒業論文に筆を走らす十數人を見受けるのみにして恰も庭砌苔陰、風死し、石養ふる感有之候▲都の人士は馳せて山に海に幽邃、閑雅なる土地を選ぶに予は土着の悲しき取殘されて八月號の編纂に忙殺され居候我部の萬藏君は歸省し、觀三君も亦大阪に在りてシユビリヒナドイシユ、スプラツへの研究に餘念なしとかや、羨ましきは旅行中の友に候
▲豫て委員會にて決議したる學友會記事全部六號活字採用案を此の八月號より實行す之れも貧乏世帯の運轉政策萬止むを得ぬ次第と諒察被下度候
▲印度春露君に申す、御多忙中毎號御投稿下され委員へも厚き稱賛の御言葉に預かり一同恐縮に候今後とも會報の改善に御努力あらん事を切に乞ふ。
(蒸し暑き七夕の夜、ひの字)

大正四年八月二十日印刷
大正四年八月廿三日發行

(非賣品)

編輯人 窪田 安次郎
印刷人 辻 雄
發行所 神戸高等商業學校學友會